

介護現場の生産性向上に向けた介護テクノロジー開発等支援事業

事業報告書

令和8年3月

厚生労働省

目次

第1章 事業概要	1
第1節 背景と目的.....	1
第2節 事業概要.....	1
第3節 実行体制.....	1
第2章 リビングラボにおける取組について.....	6
第1節 リビングラボ設置の目的.....	6
第2節 リビングラボにおける取組.....	6
第3節 各リビングラボの概要	7
第4節 各取組について.....	23
第3章 ニーズ・シーズマッチング支援事業について.....	31
第1節 マッチング支援事業の目的と支援内容.....	31
第2節 マッチングサポーターの公募.....	31
第3節 事業ホームページの更新	33
第4節 ニーズリストの公開.....	35
第5節 マッチング支援の実績.....	39
第6節 マッチング検討会.....	48
第7節 介護分野の歩き方.....	50
第4章 スタートアップ支援事業との連携構築	53
第1節 CARISO 連絡会議の開催.....	53
第2節 スタートアップ支援事業との取次スキームの確立	54
第5章 周知活動	55
第1節 事業パンフレットの作成・配布	55
第2節 国際福祉機器展への出展	56
第3節 ニーズ・シーズマッチングセミナーの開催.....	63
第4節 セミナー・メディア等における当事業の周知実績	66
第6章 まとめ.....	67
第1節 事業成果.....	67
第2節 今後必要と考えられる取組.....	69

第1章 事業概要

第1節 背景と目的

日本の高齢化は、世界に例を見ない速度で進行しており、介護ニーズが増加する一方、労働力人口が減少する状況下で、介護サービスの質の確保を図りながら、介護職員の働く環境改善を推進することは重要である。この課題に対応するためには、介護テクノロジーや ICT 等の活用を含めた生産性向上の取組を一層推進していく必要がある。

現在、介護テクノロジーや ICT 等の活用は、生産性向上の取組における効果的な手段として、様々な主体により取り組まれている。今後さらにその活用を推進するためには、介護現場のニーズをふまえた技術開発、介護現場へのテクノロジーの周知・体験機会の創出、テクノロジーを活用した介護技術・業務改善方法の構築等、開発・導入・普及広報・活用それぞれの段階で必要な取組を実施していくことが重要である。

本事業では、介護テクノロジーの製品化にあたっての評価・効果検証を実施するリビングラボのネットワークを形成するとともに、実証フィールドを整備することにより、企業による技術開発を促進する。あわせて、エビデンスデータを蓄積するとともに、周知を図り、介護テクノロジーの開発を加速化する。

なお、本事業及び「介護現場の生産性向上に向けた介護系ベンチャー等にかかる調査業務・総合支援業務一式」（以下、スタートアップ支援事業という。）の全体像を CARISO（CARE Innovation Support Office）（以下、CARISO という。）と定義し、研究開発から上市に至るまでの各段階で生じた課題等に対する総合的な支援を行う。

第2節 事業概要

本事業の事業内容を以下に示す。

- ・ リビングラボネットワーク
 - ① 介護テクノロジーの製品評価・効果検証
 - ② 介護テクノロジーの効果検証に係る助言
 - ③ 効果測定事業に係る助言
 - ④ 進捗状況の報告、CARISO 連絡会議への参加
 - ⑤ リビングラボネットワーク連絡会議への参加
- ・ 事務局
 - ① リビングラボネットワークの活動支援・周知
 - ② 介護テクノロジーのニーズ・シーズマッチング支援事業の実施
 - ③ スタートアップ支援事業、リビングラボネットワーク等の連携構築

第3節 実行体制

本事業の実行体制は全国 8 か所の基幹型リビングラボおよび 7 か所の支援型リビングラボ、厚生労働省および事務局からなる。

(1)リビングラボ

本事業で選定した基幹型リビングラボは以下8か所である。

図表 1-1 基幹型リビングラボ一覧

名称	所在地
東北大学青葉山リビングラボ	〒980-0845 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-01 東北大学大学院工学研究科機械系共同棟5階
Care Tech Lab (株式会社善光総合研究所)	〒144-0033 東京都大田区東糀谷六丁目4番17号
Future Care Lab in Japan (SOMPO ケア(株))	〒140-0002 東京都品川区東品川 4-13-14 グラスキューブ品川10階
柏リビングラボ (国立研究開発法人産業技術総合研究所)	〒277-0882 千葉県柏市柏の葉 6-2-3 東京大学柏IIキャンパス内 社会イノベーション棟
藤田医科大学 ロボティクススマートホーム・活動支援機器研究実証センター	〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98 藤田医科大学病院内
国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター	〒474-8511 愛知県大府市森岡町7-430
ロボット活動支援機器実証センター (吉備高原医療リハビリテーションセンター)	〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川7511
スマートライフケア共創工房 (国立大学法人 九州工業大学)	〒808-0135 福岡県北九州市若松区ひびきの2-5 情報技術高度化センター

また、支援型リビングラボは以下7か所である。

図表 1-2 支援型リビングラボ一覧

名称	所在地
社会福祉法人 孝徳会 特別養護老人ホーム サポートセンター門司	〒800-0064 福岡県北九州市門司区松原1丁目3-8
社会福祉法人 こうほうえん	〒683-0853 鳥取県米子市両三柳1400
公益社団法人 全国老人保健施設協会	〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル6階
東北福祉大学	〒981-8522 宮城県仙台市青葉区国見1-8-1
社会福祉法人東北福祉会 せんだんの杜	〒989-3201 宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘七丁目141番地9
徳島文理大学	〒769-2193 香川県さぬき市志度1314-1

北陸大学	〒920-1180 石川県金沢市太陽が丘 1-1
株式会社 ベネッセスタイルケア	〒163-0905 東京都新宿区西新宿 2-3-1 新宿モリスビル 5F

(2)マッチングサポーター

介護現場や介護テクノロジー等の製品知識や経験を有している有識者をマッチングサポーター(以下、サポーター)として配置した。

図表 1-3 マッチングサポーター(ニーズ側)一覧

(敬称略、50音順)

氏名	ご所属・役職
阿武 幸美	青藍会グループ 副代表
泉 博之	日本製鋼所 M&E 株式会社 室蘭製作所 事業推進室 事業企画グループ 担当部長
大内 英之	株式会社シェアサポート 代表取締役
逢坂 大輔	ロボタスネット株式会社 代表取締役
川上 理子	高知県立大学看護学部 准教授
小原 裕一	社会福祉法人 大分県社会福祉協議会 大分県社会福祉介護研修センター
榊原 直樹	清泉大学人文社会科学部 文化芸術学科 准教授
砂 亮介	株式会社介祉塾 代表取締役
関川 伸哉	東北福祉大学 総合マネジメント学部情報福祉マネジメント学科 教授
高橋 真	国立大学法人広島大学大学院 医系科学研究科保健学分野 生体運動・動作解析学 教授
田中 亜利砂	株式会社 Picto Care 代表取締役
田中 勇次郎	一般社団法人東京都作業療法士会 会長
樽本 洋平	麻生教育サービス株式会社北九州支店北九州市立介護実習・普及センター センター長
時本 ゆかり	大阪人間科学大学 人間科学部社会福祉学科 教授
長尾 哲男	長崎北病院 非常勤作業療法士
東 武憲	株式会社ホームケアサービス山口 特販部 次長
平林 当基	株式会社メディケアラボ エリア事業部 部長
福元 正伸	兵庫県立福祉のまちづくり研究所 主任
藤田 賢太郎	鹿児島医療技術専門学校 作業療法学科 副学科長
古川 和稔	東洋大学 福祉社会デザイン学部社会福祉学科 教授

宮永 敬市	北九州市保健福祉局 地域リハビリテーション推進課 課長
山田 太一	医療法人健康会介護老人保健施設アイリス リハビリテーション科 科長
湯本 晶代	川崎市立看護大学 准教授
吉田 聡	合同会社認知症総合研究所 代表社員
吉満 孝二	国立大学法人鹿児島大学医学部保健学科 助教
渡部 達也	株式会社わざケア 代表取締役

図表 1-4 マッチングサポーター(シーズ側)一覧

(敬称略、50音順)

氏名	ご所属・役職
井上 公人	株式会社スズケン 医療・介護支援事業部 統轄課長
大畑 光司	北陸大学 健康未来社会実装センター (IoHセンター) センター長 医療保健学部理学療法学科 教授
梶谷 勇	国立研究開発法人産業技術総合研究所 人間拡張研究センター生活機能ロボティクス研究チーム 主任研究員
琴坂 信哉	国立大学法人埼玉大学大学院 理工学研究科 人間支援・生産科学部門 准教授
三枝 亮	神奈川工科大学 創造工学部ロボット・メカトロニクス学科 准教授
相良 二郎	神戸芸術工科大学 名誉教授 有限会社住まいと道具研究所 代表取締役
鈴木 光久	社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団 名古屋市総合リハビリテーションセンター 地域支援部 主幹
関根 正樹	つくば国際大学 医療保健学部医療技術学科 教授
高橋 芳弘	千葉工業大学 工学部機械工学科 教授
田實 佳郎	関西大学システム理工学部 教授
中後 大輔	関西学院大学 工学部知能・機械工学課程 教授
中川 昭夫	大阪人間科学大学 保健医療学部作業療法学科 特任教授
浜田 利満	筑波学院大学 名誉教授 工学博士
平田 泰久	国立大学法人東北大学大学院 工学研究科ロボティクス専攻 教授
廣富 哲也	国立大学法人島根大学学術研究院理工学系 教授
藤澤 正一郎	徳島文理大学 理工学部機械創造工学科 教授
坊岡 正之	特定非営利活動法人結人の紬 理事長
松本 吉央	東京理科大学 先進工学部機能デザイン工学科 教授
向井 昌幸	神戸芸術工科大学 芸術工学部 生産・工芸デザイン学科 教授

渡辺 崇史	日本福祉大学 健康科学部福祉工学科 教授
-------	----------------------

(3)厚生労働省

本事業における厚生労働省担当者は以下の通りである。

図表 1-5 厚生労働省担当者一覧

氏名	所属
佐藤 修一	厚生労働省 老健局高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室 介護テクノロジー政策調整官
小林 美穂	厚生労働省 厚生労働省 老健局高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室 主査
渡辺 結起乃	厚生労働省 老健局高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室 介護テクノロジー係
阿久澤 ひかる	厚生労働省 老健局高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室 介護テクノロジー係

(4)事務局担当者

本事業における事務局担当者は以下の通りである。

図表 1-6 事務局担当者一覧

氏名	所属・役職
足立 圭司	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所 ライフ・バリュー・クリエイションユニット ディレクター
片岡 眞一郎	同 マネージャー
太刀川 遼	同 マネージャー
平良 未来	同 シニアコンサルタント
田中 拓樹	同 シニアコンサルタント
大塚 梨紗	同 コンサルタント
山中 信	同 コンサルタント

第2章 リビングラボにおける取組について

第1節 リビングラボ設置の目的

介護テクノロジー開発企業が、介護現場のニーズに合うテクノロジーを開発するためには、発の過程で、実際の使用環境に近い模擬環境でテクノロジーを使用して、その効果や安全性を確かめることが不可欠である。実際の使用環境での利用者の生の声を基に、機器の改良や顧客となるターゲット群の見直しや価格設定の変更を行う等、開発の過程で適宜現場からのフィードバックに基づき、方針や仕様を改良していくことが必要となる。

リビングラボは、ネットワーク化することで、それぞれの強みを活かした相談を受けることが可能となる等、模擬生活環境や、測定機器、専門職によるアドバイスを基に、開発企業から持ち込まれた製品の安全性や効果の検証及び、実証の支援を行い、開発企業にフィードバックをすることを目的として設置された。

第2節 リビングラボにおける取組

(1)開発企業からの相談対応

リビングラボは、開発企業からの相談に対して「製品評価・効果検証」と「効果検証に係る助言」を主な取組として実施した。本事業では、「製品評価・効果検証」と「効果検証に係る助言」を以下の様に整理した。

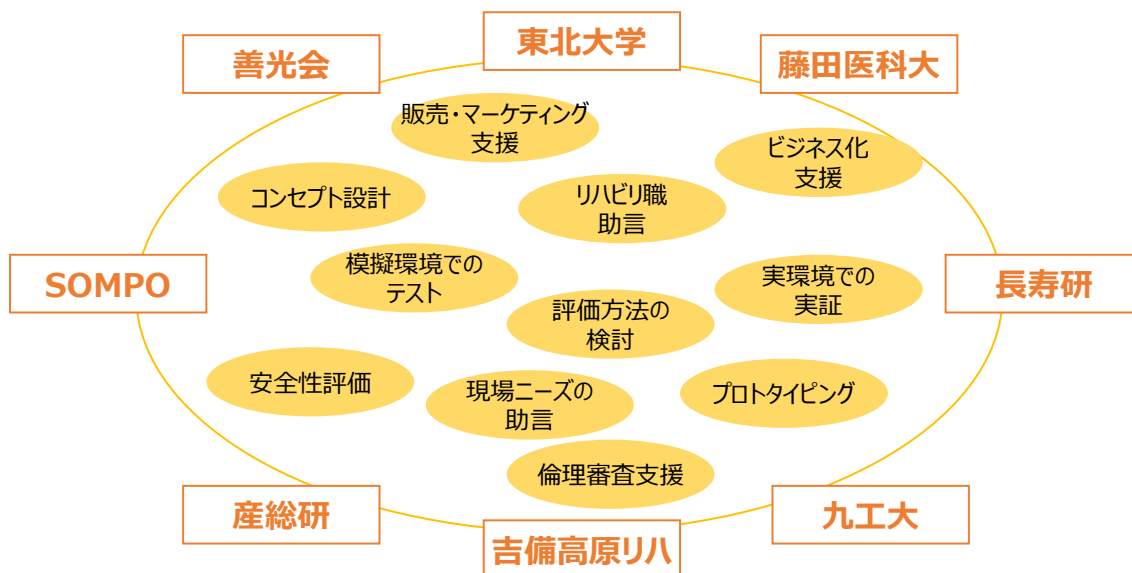
図表 2-1 「相談対応」と「ラボ検証」と「実証支援」の違い

	概要	試験環境	試験実施者
相談対応	・ 打合せや電話対応等の話し合いを主な実施事項とし、リビングラボの機材や環境を用いないで、対応したもの	(使用しない)	(実施しない)
ラボ検証	・ リビングラボの施設や設備を利用して対応したもの ・ 仮に、製品が実際の利用者に使用された場合の効果を検証したもの ・ 実際の利用者が対象ではないもの(健常者を対象)	リビングラボ等の安全性が確保された模擬環境	評価・検証に必要な専門知識を有した者
実証	・ 製品を実際の利用者に実際の利用環境で使用していただき、効果検証や改善点の導出を行ったもの	介護施設等の当該製品が実際に使用される環境	実際のユーザー

本事業に携わるリビングラボはそれぞれ異なる強みや特徴を有しており、製品に至る前段階でのコンセプト設計に対する相談対応、プロトタイプング、倫理審査支援や販売・マーケティング支援等の対応を実施した。また、必ずしも「ラボ検証」「実証支援」に限定されない取組も実施した。なお、

開発企業からの相談には、相談窓口からの取り次ぎによるもの、開発企業から直接の問い合わせによるもの、ニーズ・シーズマッチング支援事業からの紹介によるものがあった。

図表 2-2 8つのリビングラボが有する機能の全体イメージ



(2) 会議体への参加

また、リビングラボは開発企業からの相談対応の他に後述する年3回開催の「リビングラボネットワーク定例会議」、年1回開催の「CARISO 連絡会議」へ参加し、支援事例の共有等を行った。

第3節 各リビングラボの概要

リビングラボネットワークを形成する8つのリビングラボは、それぞれが異なる特徴を有している。3D プリンタやレーザーカッター等を揃え充実したプロトタイピング環境を備える施設や、リハビリテーション科専門医やセラピストが実生活環境を模した施設で実際の介護テクノロジーを活用しながらアドバイスを行う施設、安全性評価やリスクアセスメントに強みを持つ施設、実際の介護現場を複数運営し、介護現場での介護テクノロジーの実証支援や、介護現場目線でのアドバイスに強みを持つ施設が参画した。

以下に各リビングラボの名称、所在地、WEB サイト URL、コンセプト・特徴、可能な支援内容を示す。

(1) 東北大学青葉山リビングラボ

所在地	〒980-8579 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-01 東北大学大学院工学研究科機械系共同棟 5 階
URL	http://srd.mech.tohoku.ac.jp/ja/living-lab/

<p>コンセプト・特徴</p>	<p>次世代介護を実現する新しい介護テクノロジーの創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次世代介護テクノロジーの研究開発を行っている国内外の研究者との連携により、社会実装を前提とした取り組みを支援 ・ 複数の介護テクノロジーやセンサーシステムとの連携により、1台の介護テクノロジーに限定しない協調型介護支援システムの構築を支援 ・ トイレ、風呂、キッチン等を有した介護施設模擬環境や、階段、スロープ、荒地等の屋外模擬環境を整備予定 ・ VR やプロジェクタ等を利用した動的環境を模擬した介護テクノロジー評価システムを整備予定
<p>具体的な支援内容 (得意とする支援)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ モーションキャプチャ、床反力計等を利用した介護支援動作、被介護者動作、介護テクノロジー動作等の3次元計測・解析 ・ 模擬環境を利用した開発システムの環境適合性評価 ・ 他の介護テクノロジーや次世代介護テクノロジーとの連携検証評価 ・ 3Dプリンター等を利用したプロトタイプ開発支援 ・ 県内外の介護施設と連携した実証実験のコンサルティング
<p>支援を得意とする 介護環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設 ・ 在宅
<p>支援を得意とする テクノロジーの分野</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移乗支援 ・ 移動支援 ・ 排泄支援 ・ 見守り ・ 入浴支援 ・ 介護業務支援 ・ 機能訓練支援
<p>助言が可能な 開発フェーズ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画 <ul style="list-style-type: none"> ➢ ニーズ調査 ➢ コンセプト企画 ➢ ビジネスプラン検討 ➢ マッチング・ネットワークング ・ 開発 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 研究室レベルでの実証 ・ 販売 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 販売戦略

(2)Care Tech Lab (株式会社善光総合研究所)

所在地	〒144-0033 東京都大田区東糞谷六丁目4番17号
URL	https://zenkou-lab.co.jp
コンセプト・特徴	実績豊富な『考えられる現場』が実現する次世代介護 <ul style="list-style-type: none"> ・年間50件以上の企業様からのお問い合わせあり ・企画・開発・実証の全てのフェーズにおいて、企業様ごとにオーダーメイドでご支援を設計
具体的な支援内容 (得意とする支援)	<ul style="list-style-type: none"> ・企業技術を活用した機器開発のコンセプト企画 ・製品品質や性能向上のためのフィードバック ・機器運用下での職員負担の軽減具合や、職員の試用満足度評価等の変化検証 ・機器運用下でのサービス品質(利用者の状態変化)の検証 ・介護現場のニーズに合った製品・サービスを開発するための企画支援 ・開発企業持ち込み企画に対する介護現場目線での評価及びブラッシュアップ ・業界の既存製品・サービスの全体的な動向に関する情報提供 ・効果的な実証を実施するための実証計画等策定
支援を得意とする 介護環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設
支援を得意とする テクノロジーの分野	<ul style="list-style-type: none"> ・移乗支援 ・移動支援 ・排泄支援 ・見守り・コミュニケーション ・入浴支援 ・介護業務支援 ・機能訓練支援 ・食事・栄養管理支援 ・認知症生活支援・認知症ケア支援
助言が可能な 開発フェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 業界研究 ➢ ニーズ調査 ➢ コンセプト企画 ➢ ビジネスプラン検討 ➢ マッチング・ネットワーキング

	<ul style="list-style-type: none">• 開発<ul style="list-style-type: none">➤ 実運用環境での実証• 販売<ul style="list-style-type: none">➤ 販売戦略➤ 営業アプローチ➤ 導入支援➤ 継続的改良
--	---

(3)Future Care Lab in Japan (SOMPO ケア(株))

所在地	〒140-0002 東京都品川区東品川 4-13-14 グラスキューブ品川 10 階
URL	https://futurecarelab.com/
コンセプト・特徴	<p>介護サービス運営実績に基づく現場ニーズの収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食堂・風呂・介護施設の居室を再現し、人間とテクノロジーの共生をしながら新しい介護のあり方を追求する研究所 ・ 在宅介護から施設介護までフルラインナップで運営しているため、現場ニーズをダイレクトに収集可能 ・ 現場実証を通じて、介護テクノロジー実装の際に起きうる課題や懸念点の洗い出しが可能 <p>デンマークの ATAT を参考にした指標での評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ デンマークの ATAT(※)は、障害者支援機器の導入検討時に使用される評価フレーム ・ この ATAT を参考に、ヒアリング、アンケート等を活用して以下を定量的・定性的に評価 ・ 製品の精度・安全性・ケアの品質・介護士の業務負担・費用対効果 <p>(※)ATAT: Assistive Technology Assessment Tool)</p>
具体的な支援内容 (得意とする支援)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護施設を模した施設・介護施設での評価・効果検証 ・ 介護施設を模した施設にて製品を試験的に使用し、評価・効果検証 ・ 実際の介護施設内でも評価・効果検証 ・ ヒアリング、アンケート、高齢者の状態把握等により定量的・定性的に評価
支援を得意とする 介護環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設 ・ 在宅
支援を得意とする テクノロジーの分野	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移乗支援 ・ 移動支援 ・ 排泄支援 ・ 見守り・コミュニケーション ・ 入浴支援 ・ 介護業務支援 ・ 機能訓練支援 ・ 食事・栄養管理支援 ・ 認知症生活支援・認知症ケア支援

助言が可能な 開発フェーズ	<ul style="list-style-type: none">• 企画<ul style="list-style-type: none">➤ 業界研究➤ ニーズ調査➤ コンセプト企画➤ ビジネスプラン検討➤ マッチング・ネットワーキング• 開発<ul style="list-style-type: none">➤ 研究室レベルの実証➤ 実運用環境での実証➤ 上市準備• 販売<ul style="list-style-type: none">➤ 販売戦略➤ 営業アプローチ➤ 導入支援➤ 継続的改良
------------------	---

(4) 柏リビングラボ ((国研)産業技術総合研究所)

所在地	〒277-0882 千葉県柏市柏の葉 6-2-3 東京大学柏 II キャンパス内 社会イノベーション棟
URL	https://unit.aist.go.jp/rihsa/k-livinglab/
コンセプト・特徴	模擬生活環境の活用と介護関係者からの意見収集によるテクノロジーの効果・性能評価 <ul style="list-style-type: none"> ・ キッチン、風呂、トイレ等を含む模擬生活環境や、温度湿度を調整できる人工気候室を保有している。 ・ これまでの介護テクノロジー開発・導入プロジェクトにおける多くのメーカーへの開発支援を通じて、テクノロジーの安全性や効果・性能の評価に関して取り組んできた。 ・ 多様な意見を集めるため、介護テクノロジーの研究者に加えて、柏地域の介護関係者および住民参加型のワークショップを開催する。
具体的な支援内容 (得意とする支援)	リスクアセスメント・環境適合性評価・ワークショップ <ul style="list-style-type: none"> ・ リスクアセスメントシート等での機器のコンセプトや安全性の確認 ・ 模擬生活環境や人工気候室を用いた環境適合性の評価検証 ・ 高齢者模擬ロボットやモーションキャプチャ装置を用いた動作の模擬計測 ・ 介護関係者および住民参加型のワークショップにおける意見聴取 ・ 介護現場における評価実施に向けた計画立案支援
支援を得意とする 介護環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設 ・ 在宅
支援を得意とする テクノロジーの分野	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移乗支援 ・ 移動支援 ・ 排泄支援 ・ 見守り・コミュニケーション ・ 入浴支援 ・ 介護業務支援 ・ 機能訓練支援 ・ 食事・栄養管理支援 ・ 認知症生活支援・認知症ケア支援
助言が可能な 開発フェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 業界研究 ➢ ニーズ調査 ➢ コンセプト企画

	<ul style="list-style-type: none">➤ ビジネスプラン検討➤ マッチング・ネットワーキング• 開発<ul style="list-style-type: none">➤ 研究室レベルの実証➤ 実運用環境での実証➤ 上市準備• 販売<ul style="list-style-type: none">➤ 導入支援➤ 継続的改良
--	--

(5)ロボティクススマートホーム・活動支援機器研究実証センター(藤田医科大学)

所在地	〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ケ窪 1 番地 98 藤田医科大学病院内
URL	https://www.fujita-hu.ac.jp/rsh-aat/
コンセプト・特徴	実環境を模した実証研究施設 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者世帯が生活する実環境を模した実証研究施設で、長寿社会に適した住まいの開発を目指す。 ・ 介護・医療現場を熟知したリハビリテーション科専門医や理学療法士、作業療法士、リハビリテーション工学士が、随時相談可能。 ・ 複数の評価・解析機器が整備されており、実証環境の紹介や実証試験も相談可能。
具体的な支援内容 (得意とする支援)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護現場のニーズの反映方法に関する助言 ・ 利用効果の科学的な実証に関する助言 ・ 実証時に取得が必要なデータとその分析方法に関する助言 ・ 倫理審査に関する助言 ・ 実証環境、計測解析機器の紹介
支援を得意とする 介護環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設 ・ 在宅
支援を得意とする テクノロジーの分野	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移乗支援 ・ 移動支援 ・ 排泄支援 ・ 見守り・コミュニケーション ・ 入浴支援 ・ 機能訓練支援 ・ 食事・栄養管理支援 ・ 認知症生活支援・認知症ケア支援
助言が可能な 開発フェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 業界研究 ➢ ニーズ調査 ➢ コンセプト企画 ➢ マッチング・ネットワーク ・ 開発 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 研究室レベルの実証 ➢ 実運用環境での実証 ・ 販売 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 導入支援

	➤ 繼續的改良
--	---------

(6)健康長寿支援ロボットセンター((国研)国立長寿医療研究センター)

所在地	〒474-8511 愛知県大府市森岡町 7-430
URL	https://platform.ncgg.go.jp/
コンセプト・特徴	<p>ナショナルセンターとして高齢者医療・介護・生活にテクノロジーを適合</p> <ul style="list-style-type: none"> 国立長寿医療研究センターは日本にある 6 つの国立高度専門医療研究センターの一つ。健康長寿支援ロボットセンターはそのセンター内センターとして、高齢者の生活や活動を支えるテクノロジーを医療・介護・生活の場に普及するための拠点として、開発者のシーズを生活の場に適合させるための評価研究を実施している。 <p>介護効率の分析・介護負担軽減効果の実証</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護テクノロジーの評価方法の標準化事業(AMED)に採択され、動線解析による介護効率の分析、介護テクノロジーの腰部への負担軽減を深部筋の活動を計測出来る特殊な電極と三次元動作分析で実施するなどの活動に注力している。
具体的な支援内容 (得意とする支援)	<p>製品の長所を活かした利用方法と検証方法を検討</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間 7,200 人超の患者に対するリハビリ(理学療法・作業療法・言語聴覚療法を含む)と、これまでの製品開発支援のノウハウを生かし、シーズの長所を活かした利用シーンを提案 <p>長所の分析を踏まえた実証方法/実証場所の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 回復期リハビリテーション病棟 模擬生活環境(日常生活動作訓練室) 在宅(訪問リハビリ、認知症リハビリ参加者) <p>専門家および実際に支援を必要とする方の意見を反映</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療従事者 入院・通院・訪問の患者とその家族
支援を得意とする 介護環境	<ul style="list-style-type: none"> 施設 在宅
支援を得意とする テクノロジーの分野	<ul style="list-style-type: none"> 移乗支援 移動支援 排泄支援 見守り・コミュニケーション 入浴支援 介護業務支援

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機能訓練支援 ・ 食事・栄養管理支援 ・ 認知症生活支援・認知症ケア支援
<p>助言が可能な 開発フェーズ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画 <ul style="list-style-type: none"> ➤ ニーズ調査 ➤ マッチング・ネットワーキング ・ 開発 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 研究室レベルの実証 ➤ 実運用環境での実証 ・ 販売 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 導入支援 ➤ 継続的改良

(7)ロボット活動支援機器実証センター(吉備高原医療リハビリテーションセンター)

所在地	〒716-1241 岡山県加賀郡吉備中央町吉川 7511
URL	https://www.kibirihah.johas.go.jp/003_reha/16_kaigo_robo.html (独)労働者健康安全機構 ロボット活動支援機器実証センター(吉備高原医療リハビリテーションセンター) 内のページ
コンセプト・特徴	リハビリテーション専門職員によるテクノロジーの臨床効果の検証 <ul style="list-style-type: none"> ロボット活動支援機器実証センター(吉備高原医療リハビリテーションセンター)は、回復期リハビリテーション後の社会復帰までの医療を担当するリハビリテーション専門病院で、社会復帰に必要な生活環境の整備や福祉機器の開発、脊髄再生医療を視野に入れたロボティクスを用いたリハビリテーション治療を行っている。 脊髄損傷のリハビリテーション科専門医、理学療法士、作業療法士、医用工学研究員による、様々な福祉機器の臨床的評価が可能。
具体的な支援内容 (得意とする支援)	実際の生活場面・リハビリ医療現場での臨床評価 <ul style="list-style-type: none"> 脊髄損傷者のリハビリ専門医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士による、臨床現場での使用可能性の評価、製品化や安全性に関する評価、改良点等の助言 模擬生活環境(トイレ、風呂等)を用いた、機器の整合性の評価 医用工学研究員による工学的な技術を用いた定量的な評価 安全性が担保された機器について、リハビリ臨床現場で実際に使用することによる実証評価
支援を得意とする 介護環境	<ul style="list-style-type: none"> 施設 在宅
支援を得意とする テクノロジーの分野	<ul style="list-style-type: none"> 移乗支援 移動支援 入浴支援 排泄支援 見守り・コミュニケーション 機能訓練支援 食事・栄養管理支援
助言が可能な 開発フェーズ	<ul style="list-style-type: none"> 企画 <ul style="list-style-type: none"> ➤ ニーズ調査 ➤ コンセプト企画 開発 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 研究室レベルの実証

➤ 実運用環境での実証

(8)スマートライフケア共創工房 ((大)九州工業大学)

所在地	〒808-0135 福岡県北九州市若松区ひびきの 2-5 情報技術高度化センター
URL	https://slc3lab.jp/
コンセプト・特徴	<p>当事者参加型のアイデア出し、評価実験、プロトタイピングを実施可能</p> <p>被介護者(高齢者や障がい者)や介護者(介護福祉士、理学療法士、作業療法士、介護施設経営者)等当事者の協力をアイデア段階から得ることが可能。また、模擬環境で介護者・被介護者が同時にモーション、筋電位、足裏圧力分布等を計測することが可能で、更に筋骨格モデルを用いた筋活動推定やウェアラブル脳活動計測装置活用のご相談にのることも可能。また、大型の光造形式 3D プリンタや、大型のレーザーカッター、またトルク制御可能なロボットモジュール等、プロトタイピング環境も備える。</p> <p>介護施設での大規模実証も相談可能</p> <p>実験は共創工房内の基礎的かつ精密なものだけでなく、北九州市内の介護施設における製品の大規模実証実験の相談も可能。</p>
具体的な支援内容 (得意とする支援)	<ul style="list-style-type: none"> ・ モーションキャプチャ(装着式・非装着式)、筋電位信号計測装置、インソール型足圧分布計測装置、視線計測装置等を使った介護動作の計測と、介護テクノロジーの有用性検証 ・ 3Dプリンター等を活用した、素早いプロトタイプ開発 ・ 介護施設を実証フィールドとした実証実験のコンサルティング ・ 介護 IT インストラクター人材育成
支援を得意とする 介護環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設 ・ 在宅
支援を得意とする テクノロジーの分野	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移乗支援 ・ 移動支援 ・ 排泄支援 ・ 見守り・コミュニケーション ・ 入浴支援 ・ 介護業務支援 ・ 機能訓練支援 ・ 食事・栄養管理支援 ・ 認知症生活支援・認知症ケア支援
助言が可能な 開発フェーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企画 <ul style="list-style-type: none"> ➤ ニーズ調査

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ コンセプト企画 ➤ ビジネスプラン検討 ➤ マッチング・ネットワーキング ➤ 業界研究マッチング・ネットワーキング • 開発 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 研究室レベルの実証 ➤ 実運用環境での実証 • 販売 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 販売戦略 ➤ 営業アプローチ ➤ 導入支援 ➤ 継続的改良
--	--

なお、上記 8 つのリビングラボを本事業では、「基幹型」リビングラボと呼称した。他方、リビングラボネットワーク定例会議にのみ参加する組織である「支援型」リビングラボとして、以下の7つの組織が参画した。

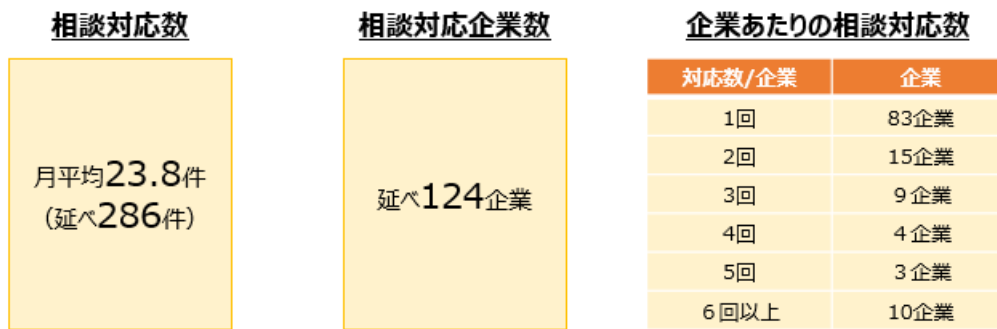
- 社会福祉法人 孝徳会
- 社会福祉法人 こうほうえん
- 公益社団法人 全国老人保健施設協会
- 東北福祉大学・社会福祉法人東北福祉会
- 徳島文理大学
- 北陸大学
- 株式会社 ベネッセスタイルケア

第4節 各取組について

第1項 相談対応

8つのリビングラボの月平均の相談対応数は23.8件であり、延べ286件(令和8年3月13日時点。以下同様とする)となった。124企業の相談に対応し、そのうち41企業に対して、リビングラボは複数回の相談対応を行った。

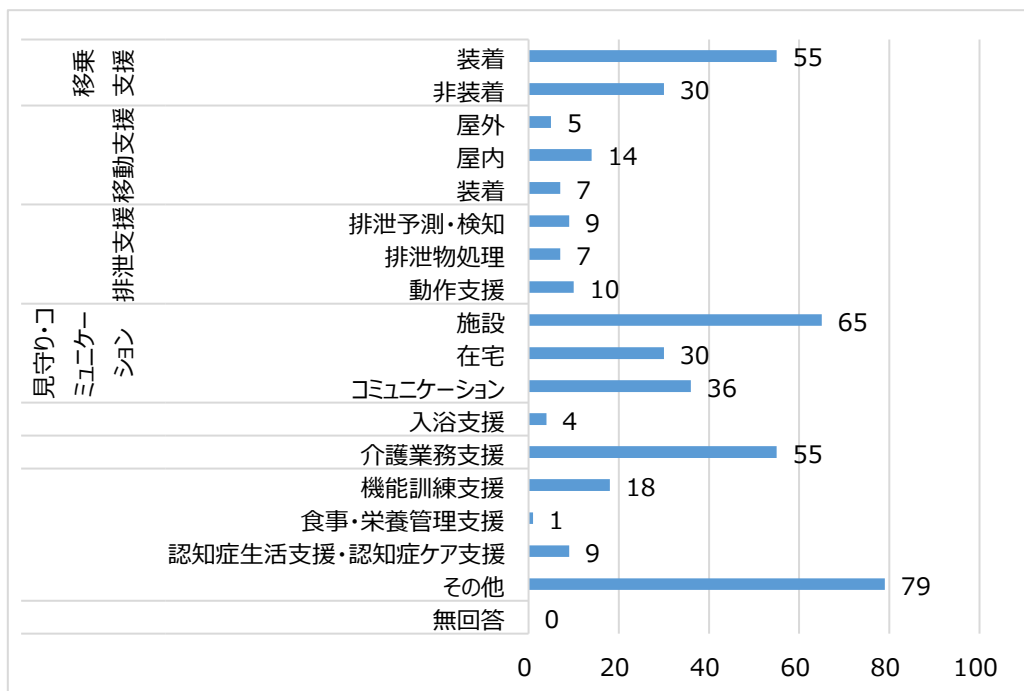
図表 2-3 リビングラボにおける相談対応実績



相談対応を行った企業が開発中・検討中のテクノロジーの分野は、「その他」を除くと、「見守り・コミュニケーション(施設)」が最も多く、次いで「移乗支援(装着)」、「介護業務支援」が多かった。

図表 2-4 開発中・検討中のテクノロジーの分野

n=286(複数回答)



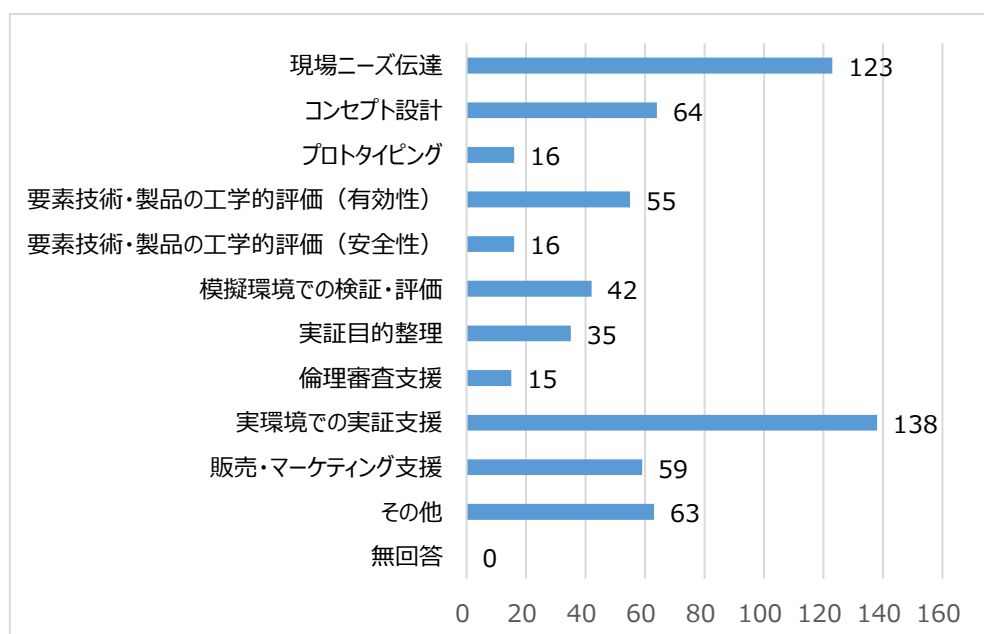
「その他」の内容(抜粋・一部加工)

- ・ ADL 評価アプリ
- ・ ヒト型の介護助手ロボット
- ・ ベッド用グリップ

相談目的としては、「実環境での実証支援」「現場ニーズ伝達」「コンセプト設計」が特に多かった。

図表 2-5 ラボへの相談目的

n=286(複数回答)



企業の相談内容等(抜粋・一部加工)

【実環境での実証支援】

- ・ 開発中のテクノロジーを上市するに当たり、質・量ともに十分なデータの収集が必要になるため実証先を紹介いただきたい。
- ・ 開発中のテクノロジーについて介護現場で機器の有効性を確かめたい。

【現場ニーズ伝達】

- ・ 上市済みの家電製品が介護現場で利用され始めているため、介護現場での利活用方法や今後の製品改良について相談したい。
- ・ 上市済みのテクノロジーの介護領域への参入障壁、現場ニーズを知るとともに、他社製品の課題などを聞きたい。

【コンセプト設計】

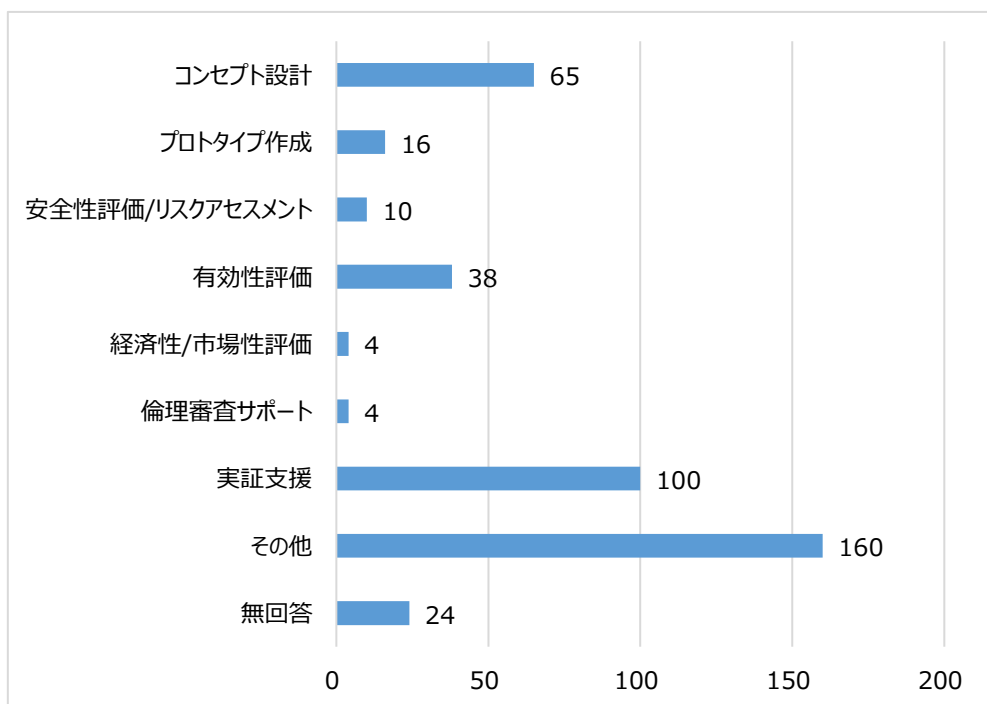
- ・ 上市前のテクノロジーについて、介護領域へ展開するに当たり業界動向やニーズを聞きたい。

- ・ 開発中のテクノロジーの販売ターゲットとする対象や地域について助言をいただきたい。

リビングラボの対応内容は、「その他」を除いて、「実証支援」「コンセプト設計」「有効性評価」が特に多かった。

図表 2-6 リビングラボの対応内容

n=286(複数回答)



リビングラボの対応内容等(抜粋・一部加工)

【実証支援】

- ・ リスクアセスメントの実施状況などを確認し、必要な資料作成などについて助言した。
- ・ 評価については、実施体制の整備や、倫理審査申請について助言した。

【コンセプト設計】

- ・ 開発を進めるに当たり、介護業界における体系的な知識を説明した。
- ・ ターゲティングおよび安全性に課題を指摘したうえで、今後はプロトタイプの商品を関係者で確認することとした。

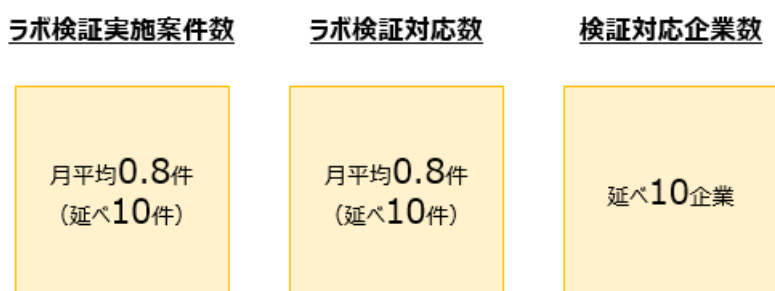
【有効性評価】

- ・ 開発中のテクノロジーの操作が難しく、課題がある認識を伝えた。
- ・ 開発中のテクノロジーについて、介護現場のニーズは一定程度見込めると同時に、競合優位性も期待できる旨を伝えた。

第2項 ラボ検証

ラボ検証については、8つのリビングラボの月平均の案件数は0.8件、対応件数は0.8件であり、延べ数はそれぞれ10件となった。企業数は10企業であった。

図表 2-7 リビングラボにおけるラボ検証対応実績



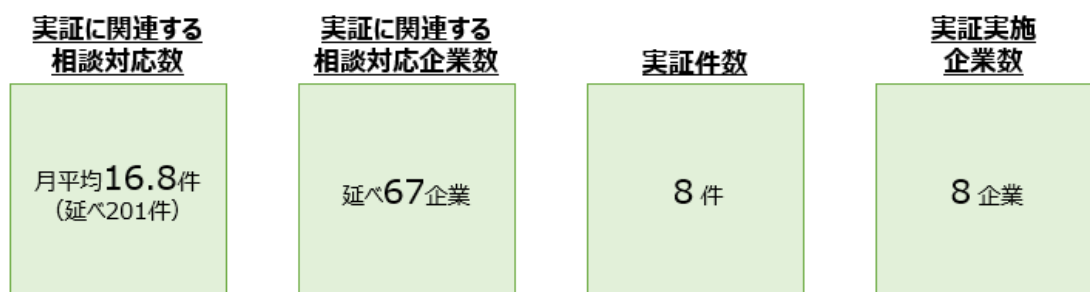
検証内容詳細(抜粋・一部加工)

- ・ 模擬環境において、理学療法士が試作品を使用し、有効性の評価を行った。
- ・ 模擬環境において、臥位、座位、立位、転落等の動作をテストを行い、対象機器が正常に機能しているか検証を行った。
- ・ 模擬環境において、対象機器の安全面における優位性やその評価方法について討議、助言を行った。

第3項 実証支援

8つのリビングラボの月平均の実証に関連する相談対応の件数は16.8件であり、延べ201件となった。これらの支援は、延べ67企業に対して行った。実際に実証を実施したのは8企業である。

図表 2-8 リビングラボにおける実証等の件数



実証内容(抜粋・一部加工)

- ・ 対象機器が検出対象として設定している動作項目の有用性について、現場職員を対象としたアンケート調査を実施する。

第4項 リビングラボネットワーク定例会議

開発企業に対して一貫した支援を実施するために、本年度は、リビングラボネットワーク定例会議と、後述のニーズ・シーズマッチング検討会を一体的に開催した。

詳細については、ニーズ・シーズマッチング検討会の項にて記載する。

第5項 倫理審査検討ワーキンググループ

過年度までのリビングラボによる開発企業支援の状況や、スタートアップ支援事業との連携をふまえて、リビングラボ設置当初に定めた倫理審査の位置づけを再検討することとした。

検討にあたっては、リビングラボ関係者及びマッチングサポーターを構成員とした倫理審査検討ワーキンググループを設置した。ワーキンググループの実施概要は以下のとおりである。

第1回倫理審査検討ワーキンググループ 開催概要

図表 2-9 第1回倫理審査検討ワーキンググループ 開催概要

(敬称略)

開催日時/形式	令和7年 10 月 21 日 (火) 14:05-15:30 WEB 会議
座長	国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター 副センター長 加藤 健治
出席者	< 基幹型リビングラボ > ・ 渡辺 健太郎 (国立研究開発法人産業技術総合研究所 グループ長) ・ 梶谷 勇 (国立研究開発法人産業技術総合研究所 主任研究員) ・ 芳賀 沙織 (SOMPO ケア株式会社 経営企画部 デジタル推進室 Future Care Lab in Japan 主任研究員) ・ 山中 裕太 (株式会社善光総合研究所 Care Tech Lab 所長) ・ 大高 洋平 (藤田医科大学 医学部リハビリテーション医学講座 主任教授 ロボティクススマートホーム・活動支援機器研究実証センター・センター長) ・ 六名 泰彦 (吉備高原医療リハビリテーションセンター 第二研究情報部長) ・ 我妻 広明 (九州工業大学 大学院生命体工学研究科 教授) < マッチングサポーター > ・ 関川 伸哉 (東北福祉大学 総合福祉学部 社会福祉学科 教授) ・ 渡辺 崇史 (日本福祉大学工学部 教授) < オブザーバー > ・ 木内 崇 (SOMPO ケア株式会社 経営企画部 デジタル推進

	室 Future Care Lab in Japan シニアリーダー) <事務局> ・株式会社 NTT データ経営研究所
アジェンダ	・開会の挨拶 ・過年度の倫理審査に関する議論の振り返り ・人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針について ・本事業における倫理審査に対する考え方について ・まとめ ・閉会

第2回倫理審査検討ワーキンググループ 開催概要

図表 2-10 第2回倫理審査検討ワーキンググループ 開催概要

(敬称略)

開催日時/形式	令和7年 12月 16日(火) 14:05-15:10 WEB 会議
座長	国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター 副センター長 加藤 健治
出席者	<基幹型リビングラボ> ・平田 泰久(国立大学法人東北大学大学院工学研究科 ロボティクス専攻 教授) ・渡辺 健太郎(国立研究開発法人産業技術総合研究所 グループ長) ・梶谷 勇(国立研究開発法人産業技術総合研究所 主任研究員) ・芳賀 沙織(SOMPO ケア株式会社 経営企画部 デジタル推進室 Future Care Lab in Japan 主任研究員) ・山中 裕太(株式会社善光総合研究所 Care Tech Lab 所長) ・大高 洋平(藤田医科大学 医学部リハビリテーション医学講座 主任教授 ロボティクススマートホーム・活動支援機器研究実証センター・センター長) ・六名 泰彦(吉備高原医療リハビリテーションセンター 第二研究情報部長) ・我妻 広明(九州工業大学 大学院生命体工学研究科 教授) <マッチングサポーター> ・関川 伸哉(東北福祉大学 総合福祉学部 社会福祉学科 教授) ・渡辺 崇史(日本福祉大学工学部 教授) <オブザーバー> ・木内 崇(SOMPO ケア株式会社 経営企画部 デジタル推進

	室 Future Care Lab in Japan シニアリーダー) <事務局> ・株式会社 NTT データ経営研究所
アジェンダ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開会の挨拶 ・ 前回の議論の振り返り ・ 介護テクノロジー開発等支援事業における「倫理審査」の位置づけの再整理について ・ 研究倫理のリテラシーを高めるための教育ツールについて ・ 介護テクノロジー開発等支援事業における実証支援について ・ まとめ ・ 閉会

なお、ワーキンググループは上記の2回開催するとともに、会議後においてもメールによる意見照会及び文書確認を実施し、検討内容の整理を行った。

第6項 リビングラボでの支援事例

以下にリビングラボでの支援事例を示す。

図表 2-11 リビングラボでの支援事例①

相談者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主な事業内容: 見守り機器の開発、製造、販売 ・ 製品: ウェアラブルデバイスに内蔵されたGPS信号で、利用者の位置を捕捉するという製品。徘徊の恐れがある場合は介護者保護対応を行うか、地域窓口へ連絡し保護を依頼 ・ 開発フェーズ: 上市後
相談内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問介護・在宅介護では導入実績があるが、施設系事業所では導入が進んでいない要因は何か ・ 施設系事業所において、外出時の見守り機能に対するニーズの有無はどの程度あるのか ・ 施設系事業所の運営・業務フローに照らした場合、現在の製品仕様が適合していない点はどこか
リビングラボ (SOMPO ケア) での対応内容	<p>以下のとおり助言を行った。</p> <p>① 施設系事業所におけるニーズの整理について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 有料施設においては、単独外出が難しい利用者に対して職員が付き添う運用が一般的であり、外出時見守り機能のニーズは限定的と考えられる。 ・ 一方、サービス付き高齢者向け住宅では外出制限を設けないケースも多く、施設側が責任を負わない前提のもと、家族から

	<p>の見守りニーズが生じる可能性がある点を共有した。</p> <p>② 実証前に確認すべき技術的観点について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現場実証に進む前に、GPS の測位精度など現場を介さず検証可能な項目については、開発企業側で十分に確認する必要がある。 ・ また、ウェアラブルデバイスについては装着時に身体へ与える影響を考慮し、工学的観点からの検証が求められる。
連携の結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実証の目的および確認すべき評価項目について、開発企業にて整理のうえ連絡をいただく予定。

第3章 ニーズ・シーズマッチング支援事業について

第1節 マッチング支援事業の目的と支援内容

(1)背景と目的

本事業では、令和6年度に実施した取組内容を踏まえ、引き続き介護現場における課題(ニーズ)と、介護テクノロジー開発に携わる企業等が保有する製品や初期段階の試作機、要素技術等(シーズ)のマッチング、シーズ同士のマッチングを支援し、開発企業等自身への気づきを与え、介護現場の真のニーズを汲み取った介護テクノロジーの開発やその利活用方法に結びつけることを目的に、ニーズ・シーズマッチング支援事業を実施した。

(2)支援内容

本事業では、介護現場の課題を開発企業が理解しやすいように整理、リスト化した上で一般公開を行った。その上で、企業がマーケット情報を収集するためのフィールド等を紹介することで、企業の参入検討・開発・製品の普及を支援した。また、介護テクノロジーの上市を目指している、または上市済の製品を持つ開発企業に対して、介護テクノロジーの販売・アフターサービス等を行っている事業者の紹介・取次を実施した。

(3)マッチング支援

マッチング支援は以下の3つを行った。

- ① ニーズリストを介したニーズの紹介、取次
- ② 実証・検証に関わる相談及びフィールド(介護施設・リビングラボ等)の紹介
- ③ 製品、技術を有する開発企業、製品の普及・活用促進を行う企業の紹介、取次

第2節 マッチングサポーターの公募

(1)背景と目的

介護現場におけるニーズの変化や技術開発の進展、およびこれらをふまえて令和6年度に実施された「介護テクノロジー利用の重点分野」改訂等により、現場ニーズや課題に即した技術導入・活用の推進が一層求められている。これを受け、介護現場と開発企業等をつなぐマッチング支援体制の強化を図るため、既存の「ニーズサポーター」および「シーズサポーター」について、追加公募を実施した。

(2)公募要件

上記の目的を達成するため、公募に際してサポーターに求められる要件を以下のとおり設定した。

- 1) ニーズサポーター・シーズサポーターに共通して求められる要件

【必須要件】

- ・ 事業の目的、趣旨に賛同いただき、別紙記載の業務内容を実施いただけること
- ・ 厚生労働省および事務局による情報提供等の求めに対して遅滞なく対応いただけること
- ・ 事業で設置するホームページへの情報掲示に同意いただけること
- ・ 機密情報の取扱い、個人情報の取扱いについて同意いただけること
- ・ 所属機関からの了承を得られること

2) ニーズサポーターに求められる要件

【必須要件】

介護分野に関して通算5年以上の実務・支援・研究等の経験を有すること(介護現場での実務、テクノロジー導入・生産性向上支援、研究、サービス開発・事業化支援、ニーズ・シーズマッチング等)。

【歓迎要件】

UI/UX に関する知見や実務経験、ならびに「機能訓練支援」「食事・栄養管理支援」「認知症生活支援・認知症ケア支援」に関連する実務・研究・技術導入経験を有すること。

3) シーズサポーターに求められる要件

【必須要件】

介護テクノロジーまたは医療・障害等ヒトを対象としたテクノロジー分野において、研究開発やサービス開発・事業化、マッチング支援等の経験を通算5年以上有すること。

【歓迎要件】

UI/UX の専門知識、上記重点分野に関する研究開発経験、介護特化型ソフトウェア開発の知識・経験、AI・サーバー管理・クラウド技術に関する知識・経験を有すること。

(3)公募の結果

書類審査およびリビングラボネットワーク定例会議兼ニーズ・シーズマッチング検討会における審議・承認を経て、以下のニーズサポーター8名、シーズサポーター3名の計 11 名を新たに選任した。

図表 3-1 新たに選任したマッチングサポーター(ニーズ側)一覧

(敬称略、50音順)

氏名	ご所属・役職
阿武 幸美	青藍会グループ 副代表
小原 裕一	社会福祉法人 大分県社会福祉協議会

	大分県社会福祉介護研修センター
榊原 直樹	清泉大学人文社会科学部 文化芸術学科 准教授
田中 亜利砂	株式会社 Picto Care 代表取締役
東 武憲	株式会社ホームケアサービス山口 特販部 次長
平林 当基	株式会社メディケアコラボ エリア事業部 部長
吉田 聡	合同会社認知症総合研究所 代表社員
渡部 達也	株式会社わざケア 代表取締役

図表 3-2 新たに選任したマッチングサポーター(シーズ側)一覧

(敬称略、50音順)

氏名	ご所属・役職
井上 公人	株式会社スズケン 医療・介護支援事業部 統轄課長
大畑 光司	北陸大学 健康未来社会実装センター (IoHセンター) センター長 医療保健学部理学療法学科 教授
向井 昌幸	神戸芸術工科大学 芸術工学部 生産・工芸デザイン学科 教授

第3節 事業ホームページの更新

開発を検討している介護テクノロジーの分野や開発フェーズに応じて、開発企業が適切なマッチングサポーターおよびリビングラボを探しやすくするため、事業ホームページの検索軸を見直し、「マッチングサポーター・リビングラボを探す」を「マッチングサポーターを探す」と「リビングラボを探す」に分割した。また、本年度より改訂された介護テクノロジー利用の重点分野との整合を図る観点から、「マッチングサポーターを探す」および「リビングラボを探す」の検索項目を重点9分野に対応した分類へ再整理し、分野別に検索可能な機能の拡充を行った。

図表 3-3 ホームページ:マッチングサポーターを探す検索ページ

マッチング支援とは | 介護現場のニーズリスト | マatchingサポーター | **リビングラボ** | 介護分野の歩き方

マッチングサポーターを探す

マッチングサポーターとは

マッチングサポーターは、介護テクノロジーの製品知識や介護現場の知識、経験を有している者から選定されています。介護現場（ニーズ）に精通しているサポーターと、テクノロジーの技術（シーズ）に精通しているサポーターが本事業に参画しています。

(参考) リビングラボとは
リビングラボは、実際の生活空間を再現し、利用者参加の下で新しい技術やサービスの開発を行うなど、介護現場のニーズを踏まえた介護テクノロジーの開発を促進するための機関です。「開発中の介護テクノロジーの製品評価をしたい」「実際の介護現場で使えるのかどうか検証したい」といった開発企業の皆さまを支援します。



図表 3-4 ホームページ:リビングラボを探す検索ページ

マッチング支援とは | 介護現場のニーズリスト | マatchingサポーター | **リビングラボ** | 介護分野の歩き方

リビングラボを探す

リビングラボとは

リビングラボは、実際の生活空間を再現し、利用者参加の下で新しい技術やサービスの開発を行うなど、介護現場のニーズを踏まえた介護テクノロジーの開発を促進するための機関です。「開発中の介護テクノロジーの製品評価をしたい」「実際の介護現場で使えるのかどうか検証したい」といった開発企業の皆さまを支援します。

(参考) マatchingサポーターとは
マッチングサポーターは、介護テクノロジーの製品知識や介護現場の知識、経験を有している者から選定されています。介護現場（ニーズ）に精通しているサポーターと、テクノロジーの技術（シーズ）に精通しているサポーターが本事業に参画しています。



図表 3-5 ホームページ:「マッチングサポーターを探す」「リビングラボを探す」検索ページにおける「助言が可能な介護テクノロジーの分野から探す」セクション

助言が可能な介護テクノロジーの分野から探す

移乗支援	移動支援	入浴支援	排泄支援	見守り・コミュニケーション	介護業務支援
機能訓練支援	食事・栄養管理支援	認知症生活支援・認知症ケア支援			

第4節 ニーズリストの公開

本事業においては、企業が介護現場のニーズを簡易的に把握することを可能とするために、昨年度事業に引き続き公式ホームページ上にニーズリストを公開した(<https://www.mhlw.go.jp/kaigoseisansei/ns/needs/index.html>)。掲載されたニーズは「ニーズがある現場(施設/在宅)」、「課題を有する主体」、「課題の発生環境」の観点からカテゴリズ・タグ付けし、介護現場における多種多様のニーズの中から、閲覧者が求めるニーズを容易に検索できるように整理した上で公開した。

(1) ニーズリスト

ニーズリストは、「課題を有する主体」および「課題の発生環境」ごとに整理し、体系的に掲載した。「課題の発生環境」については、施設および在宅それぞれの現場を想定し、介護業務の内容に即して分類を行った。介護業務の区分は、大分類を「サービス提供」「情報連携」「管理業務」とし、中分類を「基本動作」「ADL 関連」「医療」「アプローチ関連」「ひと・コミュニケーション」「その他業務」「リーダー業務」「書類・記録関連」として整理した。なお、中分類の設計にあたっては、厚生労働省「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン」に掲載されている業務時間調査票を参考としている。

また、利用者または介助者にとって発生しているニーズが一日のどの時間帯に生じているのかを把握できるよう、利用者が起床してから翌日の起床に至るまでの時間帯を網羅的に選択肢として設定した。これにより、生活場面に即したニーズの発生状況を把握できる構成としている。下記は掲載されたリストのイメージ図である。

図表 3-6 ニーズリスト:施設における介護業務ごとのニーズ一覧(イメージ図)

		課題の持ち主				
		利用者・被介護者	介護職員	管理者	専門職	家族
介護業務	基本動作	・認知症高齢者介護の移乗場面での噛みつき行為	・ベッド上でオムツ交換をする際にベッドの高さを自分の身長、姿勢にあった位置まで調整する必要がある。			
	ADL 関連	<ul style="list-style-type: none"> ・おむつからの便・尿もれによるリネン関係の汚染対策 ・おむつ着用による皮膚トラブルへの改善 ・トイレ頻回の利用者様への対応 ・自立の利用者様への口腔ケア不足 ・食事摂取量が低下した入居者に対する栄養摂取 ・浴槽内で顔がお湯に浸っていないか見守る必要がある ・入浴時、本人の姿勢が不安定で都度姿勢を直す必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の介護テクノロジーの情報統合(インターフェース) ・服薬コンプライアンスの向上 ・眠剤や下剤の調整 ・食堂における見守り ・ご利用者様の備品管理がアナログ ・夏場における入浴介助の際の暑さへの対策 ・おむつからの便・尿もれによるリネン関係の汚染対策 ・おむつ着用による皮膚トラブルへの改善 ・トイレ頻回の利用者様への対応 ・内服漏れ防止 ・自立の利用者様への口腔ケア不足 ・ミキサー食の利用による食事介助時間の増大 ・嚥下障害のある利用者様への介助 ・拘縮部分や痛み配慮しながら洗身することに負担を感じる。 ・新人および外国人介護士が薬を間違っ 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の介護テクノロジーの情報統合(インターフェース) ・ご利用者様の備品管理がアナログ ・新人および外国人介護士が薬を間違っ ・食事介助の際に飲み込んだかどうか不明で誤嚥させるリスクが高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の介護テクノロジーの情報統合(インターフェース) ・夏場における入浴介助の際の暑さへの対策 	

		<ul style="list-style-type: none"> で渡してしまう ・浴槽内で顔がお湯に浸っていないか見守る必要がある ・入浴時、本人の姿勢が不安定で都度姿勢を直す必要がある ・食事介助の際に飲み込んだかどうか不明で誤嚥させるリスクが高い 			
医療		<ul style="list-style-type: none"> ・複数の介護テクノロジーの情報統合（インターフェース） ・様子観察と申し送られた入居者が夜間に発熱する 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の介護テクノロジーの情報統合（インターフェース） ・様子観察と申し送られた入居者が夜間に発熱する 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の介護テクノロジーの情報統合（インターフェース） 	
アプローチ 一 関 連	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者が施設又は自宅から一人で外に出てしまい行方知れずになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の介護テクノロジーの情報統合（インターフェース） ・夜間、居室内から何かしらの物音がしないか常に注意していることに負担を感じる ・様子観察と申し送られた入居者が夜間に発熱する ・ユニット型特養での夜勤中、介助のため居室に入るとフロアーの見守りがいなくなる ・見守り職員が不足しているため利用者の所在が分からなくなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の介護テクノロジーの情報統合（インターフェース） ・様子観察と申し送られた入居者が夜間に発熱する ・ユニット型特養での夜勤中、介助のため居室に入るとフロアーの見守りがいなくなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の介護テクノロジーの情報統合（インターフェース） ・夜間、居室内から何かしらの物音がしないか常に注意していることに負担を感じる 	
ひと・コ ミュ ニ ケー ション	<ul style="list-style-type: none"> ・余暇活動の相手 ・補聴器や集音器などは他の音も増大させてしまうので、結局は近くに行って話をしなければならぬ ・補聴器を装着する意味を理解できず認知症高齢者が外してしまい、介護者との意思疎通が困難となる ・聴力低下があり大きな声で話すため、他人に聞かれることで自尊心を傷つけてしまう 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の介護テクノロジーの情報統合（インターフェース） ・看護師－介護士間の情報共有不足によるエラー発生 ・補聴器を装着する意味を理解できず認知症高齢者が外してしまい、介護者との意思疎通が困難となる ・落ち着きがなくなる、不穏状態になりかけの際に雰囲気を変えるような本人にあった話題が出てこない ・聴力低下があり大きな声で話すため、他人に聞かれることで自尊心を傷つけてしまう ・帰宅願望が連鎖して収集がつかなくなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の介護テクノロジーの情報統合（インターフェース） ・補聴器や集音器などは他の音も増大させてしまうので、結局は近くに行って話をしなければならぬ ・補聴器を装着する意味を理解できず認知症高齢者が外してしまい、介護者との意思疎通が困難となる ・落ち着きがなくなる、不穏状態になりかけの際に雰囲気を変えるような本人にあった話題が出てこない 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の介護テクノロジーの情報統合（インターフェース） ・補聴器や集音器などは他の音も増大させてしまうので、結局は近くに行って話をしなければならぬ ・補聴器を装着する意味を理解できず認知症高齢者が外してしまい、介護者との意思疎通が困難となる 	<ul style="list-style-type: none"> ・補聴器を装着する意味を理解できず認知症高齢者が外してしまい、介護者との意思疎通が困難となる
その他 業務	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄介助時に共用スペースまたは隣室に広がる臭い 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の介護テクノロジーの情報統合（インターフェース） ・会議や委員会の議事録を取る際や情報共有するためのシステムに入力する際に時間がかかる ・排泄介助時に共用スペースまたは隣室に広がる臭い 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の介護テクノロジーの情報統合（インターフェース） ・会議や委員会の議事録を取る際や情報共有するためのシステムに入力する際に時間がかかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の介護テクノロジーの情報統合（インターフェース） 	
リーダ ー 業 務		<ul style="list-style-type: none"> ・複数の介護テクノロジーの情報統合（インターフェース） ・ご利用者様の備品管理がアナログ ・利用者様の情報共有・情報分析ができていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の介護テクノロジーの情報統合（インターフェース） ・ご利用者様の備品管理がアナログ ・利用者様の情報共有・情報分析ができていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の介護テクノロジーの情報統合（インターフェース） ・利用者様の情報共有・情報分析ができていない 	
書類・記 録 関 連		<ul style="list-style-type: none"> ・複数の介護テクノロジーの情報統合（インターフェース） 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の介護テクノロジーの情報統合（インターフェース） 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の介護テクノロジーの情報統合（インターフェース） 	

図表 3-7 ニーズリスト:在宅における介護業務ごとのニーズ一覧(イメージ図)

		課題の持ち主				
		利用者・被介護者	介護職員	管理者	専門職	家族
介護業務	基本動作	・認知症高齢者介護の移乗場面での噛みつき行為				
	ADL 関連	・浴槽内で顔がお湯に浸っていないか見守る必要がある ・食事介助の際に飲み込んだかどうか不明で誤嚥させるリスクが高い	・服薬コンプライアンスの向上 ・浴槽内で顔がお湯に浸っていないか見守る必要がある ・食事介助の際に飲み込んだかどうか不明で誤嚥させるリスクが高い			
	医療					
	アプローチ関連	・認知症高齢者が施設又は自宅から一人で外に出てしまいうる方知れずになる				
	ひと・コミュニケーション	・補聴器や集音器などは他の音も増大させてしまうので、結局は近くに行って話をしなければならぬ ・補聴器を装着する意味を理解できず認知症高齢者が外れてしまい、介護者との意思疎通が困難となる	・通所系サービスにおけるご家族への連絡帳作成 ・補聴器や集音器などは他の音も増大させてしまうので、結局は近くに行って話をしなければならぬ ・補聴器を装着する意味を理解できず認知症高齢者が外れてしまい、介護者との意思疎通が困難となる	・補聴器を装着する意味を理解できず認知症高齢者が外れてしまい、介護者との意思疎通が困難となる	・補聴器や集音器などは他の音も増大させてしまうので、結局は近くに行って話をしなければならぬ ・補聴器を装着する意味を理解できず認知症高齢者が外れてしまい、介護者との意思疎通が困難となる	・補聴器や集音器などは他の音も増大させてしまうので、結局は近くに行って話をしなければならぬ ・補聴器を装着する意味を理解できず認知症高齢者が外れてしまい、介護者との意思疎通が困難となる
	その他業務		・災害発生時の安否確認に時間をとられ、自分たちにとって必要な行動が遅れる	・災害発生時の安否確認に時間をとられ、自分たちにとって必要な行動が遅れる	・災害発生時の安否確認に時間をとられ、自分たちにとって必要な行動が遅れる	
	リーダ一業務		・複数の介護テクノロジーの情報統合(インターフェース) ・ご利用者様の備品管理がアナログ ・利用者様の情報共有・情報分析ができていない	・複数の介護テクノロジーの情報統合(インターフェース) ・ご利用者様の備品管理がアナログ ・利用者様の情報共有・情報分析ができていない	・複数の介護テクノロジーの情報統合(インターフェース) ・利用者様の情報共有・情報分析ができていない	
	書類・記録関連		・複数の介護テクノロジーの情報統合(インターフェース)	・複数の介護テクノロジーの情報統合(インターフェース)	・複数の介護テクノロジーの情報統合(インターフェース)	

(2)ニーズの事例

ニーズリストに掲載したニーズは、各々の詳細ページにて具体的な内容を説明した。掲載事例として下記に2例を記載する。

1)事例1 看護師－介護士間の情報共有不足によるエラー発生

- 環境:施設

- 介護業務: (大分類)情報連携
(中分類)ひと・コミュニケーション、書類・記録関連
- 課題を有する主体:介護職員
【課題を有する主体の詳細】
施設系事業所の介護職員のうち日本語を母国語としない職員(外国人介護人材を想定)
- 課題の具体的内容
介護士、特に外国人介護人材が看護師の記録を確認する際、専門用語が多く理解することが困難。しかし看護師は人数も少なく忙しいからか、聴ける雰囲気でもないことが多く、あやふやなままケアをしてしまいエラーが起りやすい。
- 解決の方向性
【ありたい姿想定】
看護師の記録確認時に外国人介護人材も理解できる内容が表示される。
【解決の方向性案】
看護師が記録を記述する際に AI が医療用語など分かりにくい言葉を自動で変換する機能。また外国人介護人材が確認する際に母国語に翻訳した状態で表示する。
身体状態は言語だけでなく、イラストを用いて簡便にインプットアウトプットできるもの。

2)事例2 ベッド上でオムツ交換をする際にベッドの高さを自分の身長、姿勢にあった位置まで調整する必要がある

- 環境:施設
- 介護業務: (大分類)サービス提供
(中分類)基本動作
- 課題を有する主体:介護職員
【課題を有する主体の詳細】
入所系サービスで勤務する介護職員でベッド上オムツ交換をする職員
- 課題の具体的内容
オムツ交換時に腰痛を発症させないために、自分にあつた位置までベッドの高さを昇降させる必要がある。夜勤時は最初の交換時に自分の高さに調整するので、その後は調整が発生しないが日中は自分以外にも担当するため、高さがバラバラになっている。本当は位置を調整してから行うべきであるが、急いでいる場合には、調整する時間をもたないで調整せずに行ってしまう(特に昇降させる幅が広い場合)。結果として腰痛の発症リスクが高まってしまう。
- 解決の方向性
【解決の方向性案】
特殊な設定(低床など)をしない限り、標準的な位置に高さが戻っている。
【課題を有する主体の詳細】

施設の介護職員がその場で操作することを前提とした基本設定および速度も調整できるオプションモードの設定。

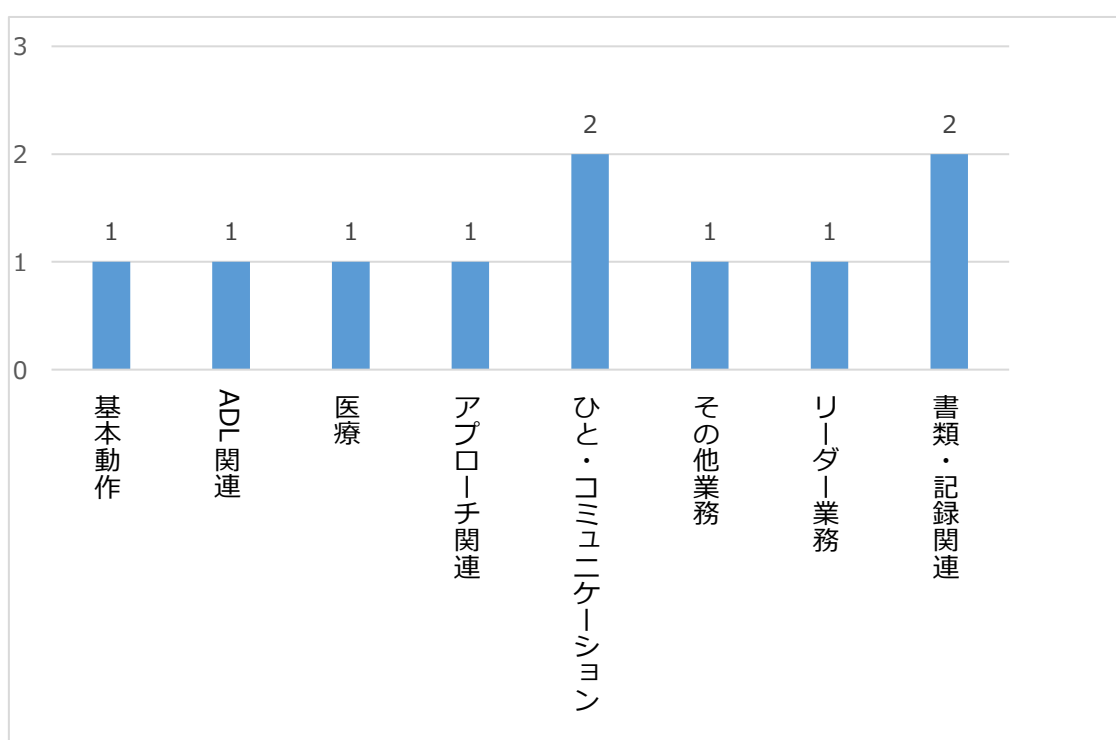
(3)新たなニーズの収集

当該ニーズリストを昨年度に引き続いて掲載しており、現在公開しているニーズは 295 件である。本年度は新たにマッチングサポーターから3件のニーズを収集した。

新たに収集したニーズが発生している介護業務は以下のとおり。

図表 3-8 新たに収集したニーズの場面(介護業務)

n=9(複数回答)



第5節 マッチング支援の実績

総エントリー団体数は 51 団体であった(令和 8 年3月 13 日時点。以下同様とする)。

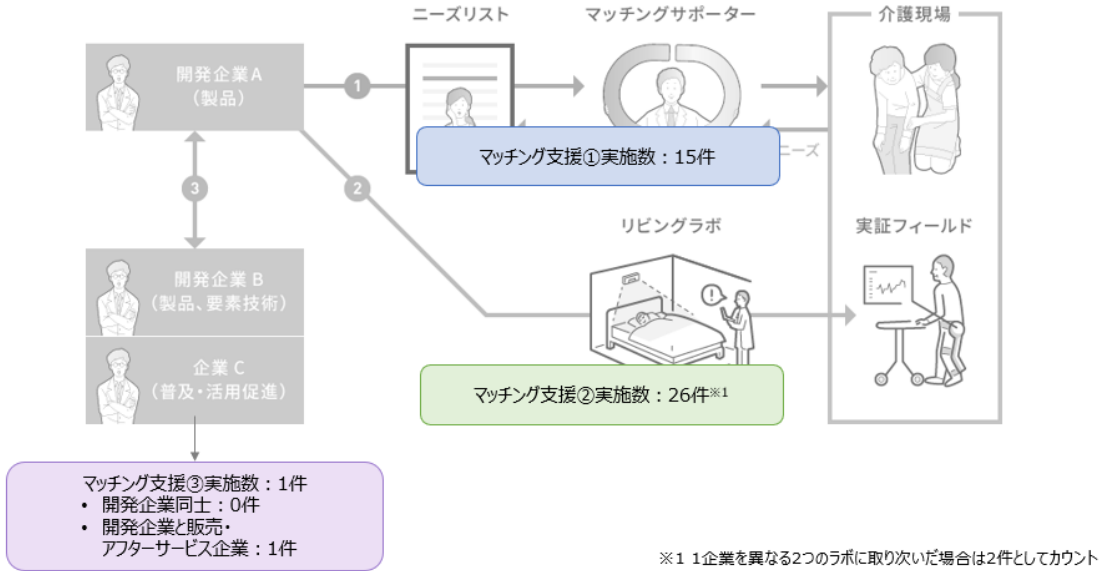
マッチング支援①は 15 件を実施し、うちニーズに対する今後の開発意向があると回答されたものは 6 件であった。

マッチング支援②は 25 件を実施した。

マッチング支援③は1件を実施し、開発企業同士のものは 0 件、開発企業と販売・アフターサービス企業とのものは 1 件であった。

図表 3-9 マッチング支援実績

総エントリー団体数：51団体

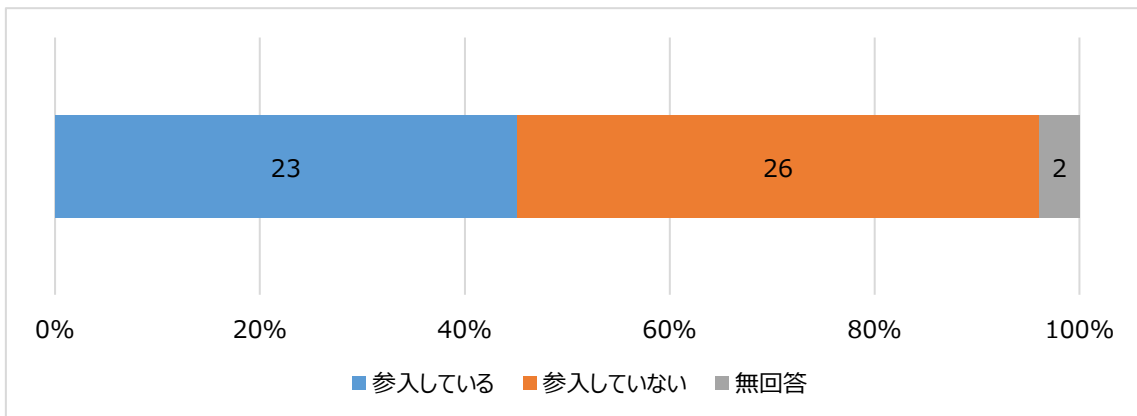


第1項 エントリー

エントリー団体のうち、介護分野へ参入済の団体は 23 団体であり、未参入の団体は 26 団体であった。

図表 3-10 エントリー企業の介護分野への参入有無

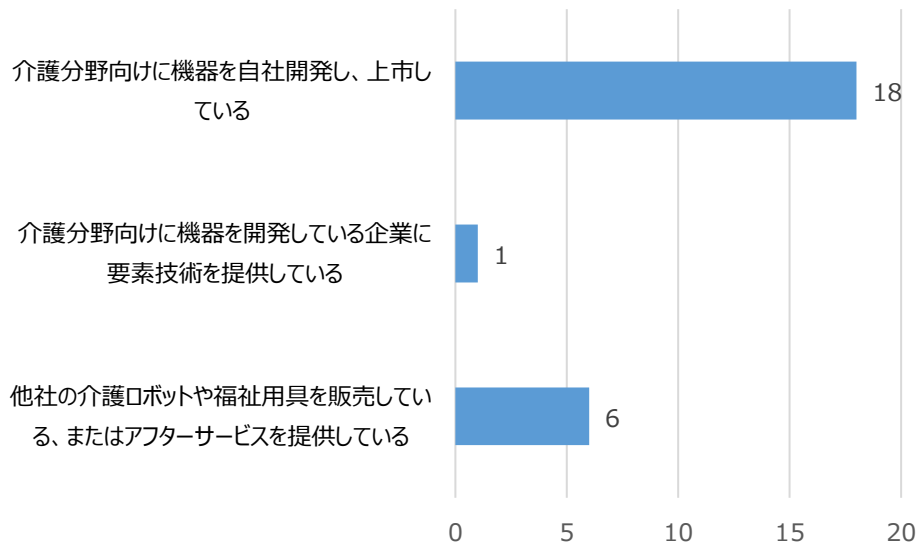
n=51



介護分野へ参入済の団体のうち、介護テクノロジー開発企業は 18 団体、要素技術を提供している企業は 1 団体、販売・アフターサービス企業は 6 団体であった。

図表 3-11 エントリー企業の介護分野への参入状況(参入済団体)

n=23(複数回答)



第2項 マッチング支援①

(1)実施件数

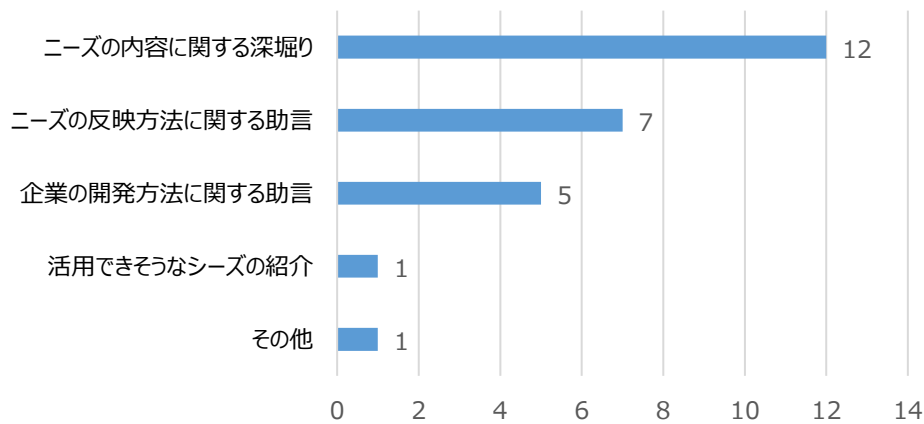
11 団体に対して、マッチングサポーターとの相談対応を 14 件実施した。

(2)相談内容と対応内容

マッチングサポーターへの相談内容は、ニーズの内容に関する深掘りが最も多かった。ニーズの反映方法に関する助言を求める相談も一定数あった。

図表 3-12 マッチングサポーターへの相談内容

n=14(複数回答)



対応内容の詳細(抜粋・一部加工)

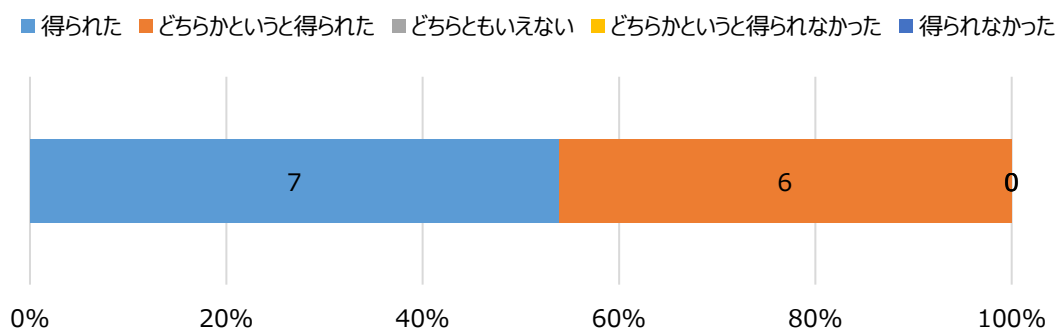
- ・ 現場職員の困りごととしては多くの事業所が抱える困りごと(負荷業務)であると説明したが、類似アプリは既に存在しているため、他社との差別化が必要であることを助言した。
- ・ 見守り機器に関する動向や課題等の説明をするとともに、認知症や要介護状態にある方の見守りのみならず、他の障害者等の生活スタイルも考慮する必要性を助言した。

(3)アンケート結果

マッチング支援①を行った団体から回収したアンケートにおいて、参入検討および開発加速に寄与する助言等が「得られた」との回答が 7 件、「どちらかというと得られた」との回答が 6 件であった。「どちらともいえない」「どちらかというと得られなかった」「得られなかった」との回答はなかった。

図表 3-13 参入検討および開発加速に寄与する助言等が得られたか

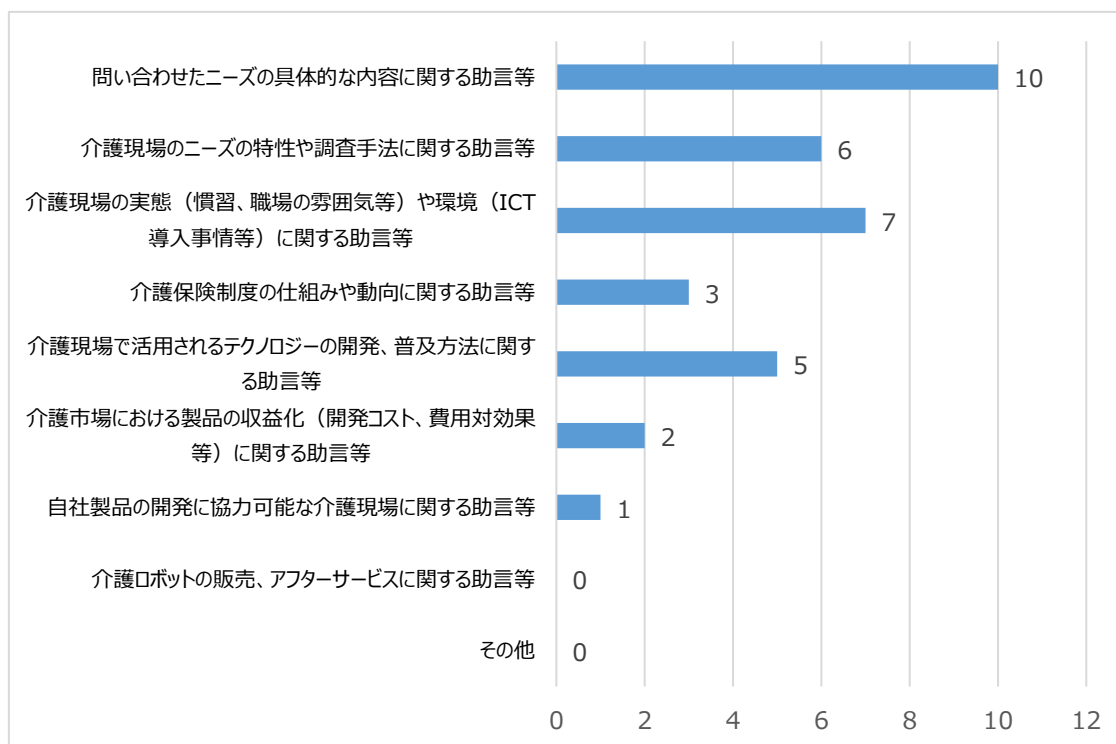
n=13



有益であった助言としては、「問い合わせたニーズの具体的な内容に関する助言等」の回答が最も多く 10 件、「介護現場の実態（慣習、職場の雰囲気等）や環境（ICT 導入事情等）に関する助言等」の回答が 7 件であった。

図表 3-14 どのような助言が有益であったか

n=13(複数回答)



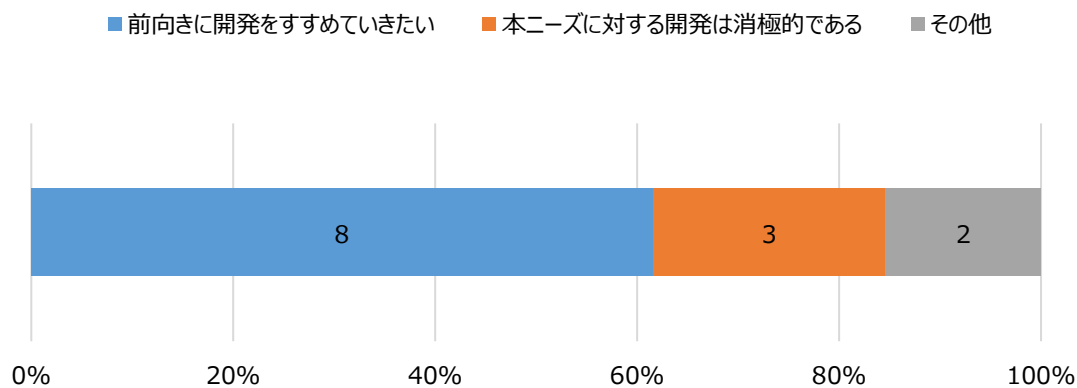
有益であった助言内容(抜粋・一部加工)

- ・ 開発検討中の機器について市場に出ている他社製品の機能性、欠点などについて明確な対比表をまとめ、介護現場のニーズに応えた基本コンセプトを設計するという助言が有益であった。
- ・ 把握できていなかった現場の具体的なニーズについてご教示いただき、今後の製品・サービス検討に向けた視点を得ることができた。

問い合わせたニーズに対する今後の開発意向については、「前向きに開発を進めていきたい」が最も多かった。

図表 3-15 問い合わせたニーズに対する今後の介護テクノロジーの開発意向

n=13



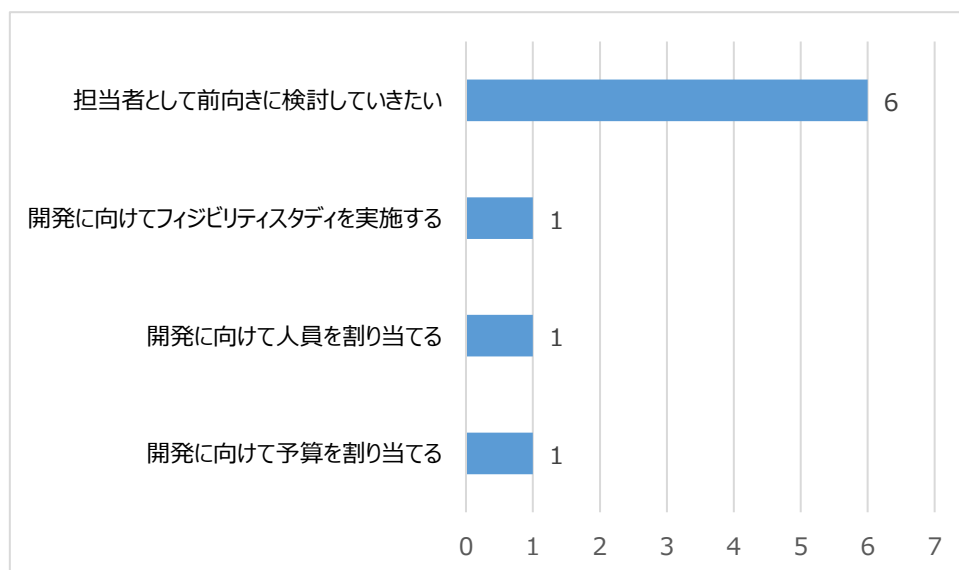
「その他」の内容(抜粋)

- ・ 介護業界のみならず一般産業にも展開できるソフトウェア開発を検討

開発意向の詳細については、「担当者として前向きに検討していきたい」が最も多かった。

図表 3-16 今後の開発意向の詳細

n=8(複数回答)



(4)事例

以下に、マッチング支援の一例を示す。

図表 3-17 マッチング支援①の事例

相談者	<ul style="list-style-type: none">・ 主な事業内容:AIとIOMT(Internet of Medical Things)技術を活用した、医療、介護、福祉分野におけるシステム開発・ 製品概要:在宅医療及び介護支援として、病院、クリニック、訪問看護ステーション、介護支援者、家族を含む地域包括ケアを目的とした多職種連携を支援するシステム。また、医療従事者や介護者の関連業務の最適化を実現するシステム・ 開発フェーズ:開発中
マッチング希望内容	<ul style="list-style-type: none">・ 医療機関向けに職種間で患者情報を共有するシステムを開発している企業。その技術を活かして介護業界向けの他事業所、他職種間で情報共有する商品を開発したいが、そもそもニーズがあるのか確認したい。・ 介護現場でのヒヤリハットなどを生成 AI を用いて作成し共有をはかり理解を深めるコンテンツ動画にニーズはありそうか知りたい。
面談内容	<p>以下のとおり助言を行った。</p> <p>○製品のコンセプトについて</p> <ul style="list-style-type: none">・ 職種間をはじめとして情報を共有することは非常に重要なツールである。 <p>○ケアプランデータ連携システムの利用率が伸び悩む背景</p> <ul style="list-style-type: none">・ 在宅介護事業者は担当ケアマネジャーさんとゆっくりお話できる機会を「実績配布時」と捉えているケースが多い。・ ケアプランデータ連携システムを活用することで、こうした側面でのコミュニケーション機会が減少・喪失する可能性があるとの懸念が要因の一つと感じている。・ このような情報連携システムの開発にあたっては、業務の利便性向上だけでなく、現場における関係性やコミュニケーションの側面も考慮する必要がある。 <p>○生成 AI を活用して開発中の動画コンテンツのニーズ</p> <ul style="list-style-type: none">・ 生成 AI に限らず、動画で情報を共有することは「見れば分かる」ため、非常に効果的であると考える。・ ヒヤリハット以外にも認知症の困難事例などリアルにみることができない症状を理解する際には効果的な手法になるのではないかと。

企業の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護業界のみならず、一般産業にも展開できるソフトウェア開発をしていく。 ・ フィジビリティスタディをさらに進めることとした。
-------	---

第3項 マッチング支援②

(1)実施件数

10 団体に対して、リビングラボへの取次を 26 件*実施した。

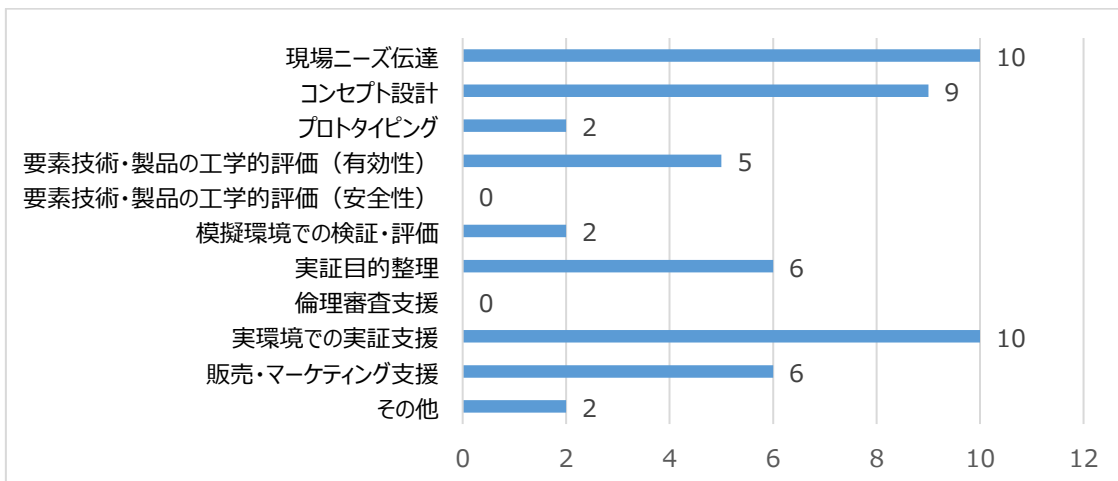
※1 団体を 2 つのリビングラボに取り次いだ場合には、取次を 2 件とカウントした。

(2)企業の相談目的・相談内容

マッチング支援②を実施した団体の相談目的は「現場ニーズ伝達」が最も多く 16 件であった。

図表 3-18 企業の相談目的

n=26(複数回答)



企業の相談内容(抜粋・一部加工)

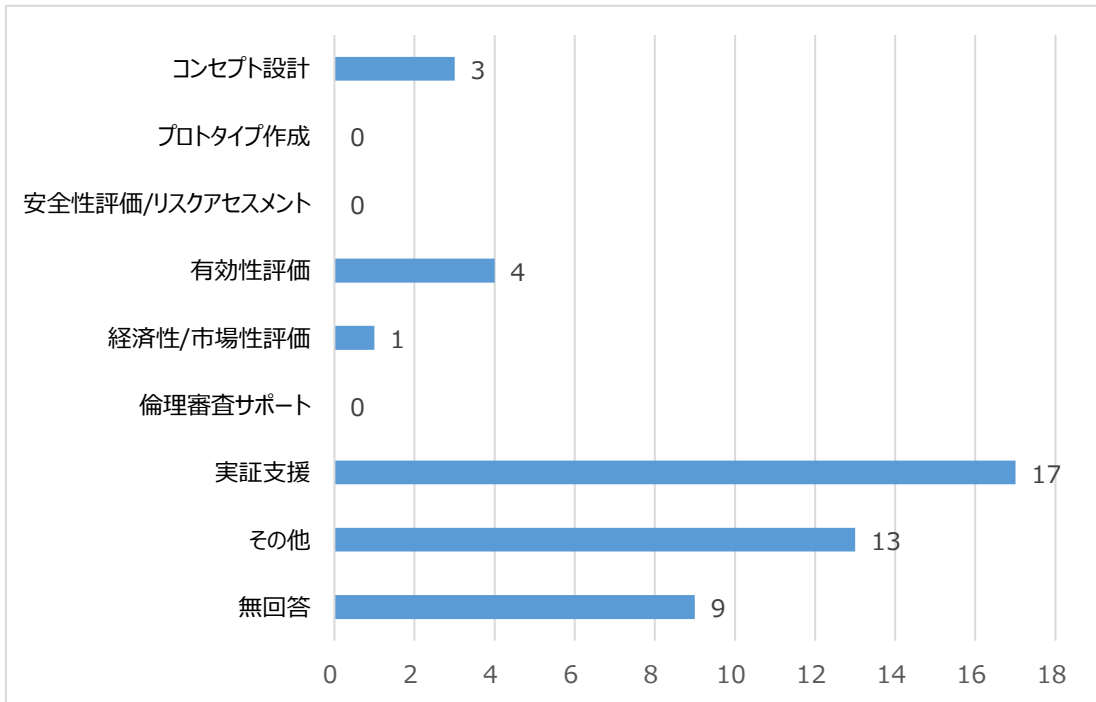
- ・ 保有しているシーズについて、現場のニーズがあるかなど、コンセプト設計からご支援いただきたい。
- ・ 医療介護連携におけるニーズと解決策について、ディスカッションを行いたい。
- ・ 現在開発しているサービスのプロトタイプをベースに実証実験を行う場を確保したい。また、実証実験を踏まえ、導入を進めていくうえでの行政の支援事業や、販売・導入企業との連携について相談させていただきたい。

(3)リビングラボの対応内容・対応結果

マッチング支援②を実施した団体に対するリビングラボの対応内容は、「その他」が最も多く 11 件であった。

図表 3-19 リビングラボの対応内容

n=41(複数回答)



対応内容詳細(抜粋・一部加工)

- ・ リハビリや予防の観点で、自治体によって対応がさまざまであることに対して、助言を行った。
- ・ 実証のプロトコルを定め、事例ベースで時間をかけてデータ収集する必要があることの助言を行った。

第4項 マッチング支援③

マッチング支援③は1件を実施し、うち、マッチング支援③-1(要素技術を探している企業と、要素技術を有する企業とのマッチング支援)は0件、マッチング支援③-2(開発企業と販売・アフターサービス企業とのマッチング支援)は1件であった。

(1)マッチング支援③-1

マッチング支援③-1においては、マッチング支援の実施件数は0件であった。なお、登録数は延べ8団体であり、他社から技術を紹介して欲しい団体は4団体、他社に自社の技術を紹介したい団体は4団体であった。

(2)マッチング支援③-2

1)実施件数

マッチング支援③-2においては、開発企業1団体、および販売・アフターサービス企業1団体

に対して企業同士の面談を1回行った。なお、登録数は延べ13団体であり、開発企業は11団体(11製品)、販売・アフターサービス企業は2団体であった。

第6節 マッチング検討会

政策への提案・助言を行うこと、企業の相談対応の仕組みを確立し、支援の強化・拡充に活かすことを目的として、ニーズ・シーズマッチング検討会を行った。なお本年度は前述のとおり、リビングラボネットワーク定例会議と一体的に運営し、事業期間中に計3回実施した。開催概要は以下のとおり。

(1)第1回リビングラボネットワーク定例会議 兼 マッチング検討会 開催概要

図表 3-20 第1回リビングラボネットワーク定例会議 兼 マッチング検討会 開催概要

(敬称略)

開催日時/形式	令和7年6月3日(火)13:05-14:55 WEB 会議
座長	国立大学法人九州工業大学 大学院生命体工学研究科 教授 柴田 智広
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基幹型リビングラボ ・ 支援型リビングラボ ・ マッチングサポーター <オブザーバー> ・ 厚生労働省 ・ 経済産業省 <事務局> ・ 株式会社 NTT データ経営研究所
アジェンダ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開会の挨拶 ・ 政策動向 ・ リビングラボ及びニーズ・シーズマッチング支援事業の共通事項について ・ リビングラボ業務について ・ ニーズ・シーズマッチング支援事業について ・ 講演 「開発支援における機器の安全性向上について」 ・ 事務連絡 ・ 閉会

(2)第2回リビングラボネットワーク定例会議 兼 マッチング検討会 開催概要

図表 3-21 第2回リビングラボネットワーク定例会議 兼 マッチング検討会 開催概要

(敬称略)

開催日時/形式	令和7年9月24日(水)14:05-15:35 WEB 会議
座長	国立大学法人九州工業大学 大学院生命体工学研究科 教授 柴田 智広
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基幹型リビングラボ ・ 支援型リビングラボ ・ マッチングサポーター <オブザーバー> ・ 厚生労働省 ・ 経済産業省 <事務局> ・ 株式会社 NTT データ経営研究所
アジェンダ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開会の挨拶 ・ 政策動向 ・ リビングラボ/ニーズ・シーズマッチング支援事業 進捗状況報告 ・ 公募サポーター候補者の承認について ・ 倫理審査検討 WG の設置について ・ 万博ワーキンググループ検討状況報告 ・ 事務連絡 ・ 閉会

(3)第3回リビングラボネットワーク定例会議 兼 マッチング検討会 開催概要

図表 3-22 第3回リビングラボネットワーク定例会議 兼 マッチング検討会 開催概要

(敬称略)

開催日時/形式	令和8年1月28日(水) 14:05-15:30 WEB 会議
座長	国立大学法人九州工業大学 大学院生命体工学研究科 教授 柴田 智広
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基幹型リビングラボ ・ 支援型リビングラボ ・ マッチングサポーター <オブザーバー> ・ 厚生労働省 ・ 経済産業省 <事務局>

	<ul style="list-style-type: none"> 株式会社 NTT データ経営研究所
主なアジェンダ	<ul style="list-style-type: none"> 開会の挨拶 政策動向 リビングラボ/ニーズ・シーズマッチング支援事業 進捗状況報告 中央管理事業の取組報告 スタートアップ支援事業の活動状況について 倫理審査検討 WG の検討報告 事務連絡 閉会の挨拶

第7節 介護分野の歩き方

新しく介護分野に参入を検討する企業向けに介護分野を解説したビデオコンテンツ「介護分野の歩き方」シリーズに、新たなコンテンツを追加し、ホームページ上で公開した。また、一部のコンテンツは最新状況を踏まえて更新を行った。コンテンツ一覧は以下のとおり。なお、本年度追加したコンテンツには、【追加】を、更新したコンテンツには【更新】を記した。

図表 3-23 介護分野の歩き方シリーズ コンテンツ一覧

#	分類	タイトル	講師所属・役職 (公開時点)	講師 (敬称略)
1		介護現場の動画(施設介護・在宅介護)	撮影協力: 社会福祉法人善光会 社会福祉法人福寿会	
2		介護業界の DX、テクノロジー活用 ニーズの高まり	社会福祉法人 善光会 理事 最高執行責任者 統括施設局 局長	宮本 隆史
3	介護業 界の動 向	【更新】介護テクノロジー政策の最新動 向	厚生労働省 老健局 高齢者支援課 介護業務効率化・生産性 向上推進室 介護テクノロジー政策調整 官	佐藤 修一
4		【更新】介護テクノロジー政策の最新動 向	経済産業省 商務・サービスグループ 医療・福祉機器産業室	丸古 京香
5		介護保険制度、介護業界、介護現場	一般社団法人	久留 善武

		(介護行為)の特性を理解する	シルバーサービス振興会 事務局長	
6		在宅介護の特徴的な課題と 機器開発の動向	株式会社 NTT データ経営 研究所 先端技術戦略ユニット HealthCare Implementation グループ シニアコンサルタント	山内 勇輝
7		介護保険制度における福祉用具 新たな種目・種類の追加に関する提案 の手引き	一般社団法人 日本作業療法士協会 事務局長	東 祐二
8		【追加】福祉用具情報システム(TAIS) への介護テクノロジー登録の流れとポ イント	公益財団法人テクノエイド 協会 企画部	香川 洋一
9	機器開 発	介護テクノロジーの企画・開発・販売の ポイント ～介護現場のニーズをふま えた製品・サービスをつくるために～	社会福祉法人善光会 サンタフェ総合研究室 研究員 株式会社善光総合研究所 Care Tech ZENKOUKAI Lab 所長	滑川 永
10		介護テクノロジーの創りかた・使われか た	SOMPO ケア株式会社 Future Care Lab in Japan 副所長 主任研究員	芳賀 沙織
11		ロボット介護機器の開発プロセス～ 開発の V 字モデル～	AMED ロボット介護機器開 発等推進事業(環境整備) プロジェクトリーダー 国研)産総研 インダストリア ル CPS 研究センター ディ ペンダブルシステム研究チ ーム長	中坊 嘉宏
12		介護ロボットの開発から利活用に 向けた倫理的配慮ポイントと倫理審査	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 人間拡張研究センター	梶谷 勇
13		介護分野への企業の参入動向と 開発の課題について	株式会社 NTT データ経営 研究所 先端技術戦略ユニット	山内 勇輝

			HealthCare Implementation グループ シニアコンサルタント	
14		介護ロボットの開発動向と ニーズ把握の重要性	九州工業大学 大学院 生命体工学研究科 教授・専攻長	柴田 智広
15		【追加】介護テクノロジーに求められる UI・UX	有限会社住まいと道具研 究所 代表取締役	相良 二郎
16	事業化	見守りシステム開発にかけた情熱～現 場ニーズに寄り添って～	株式会社秋田テクノデザイ ン 代表取締役	伊藤 毅
17		ニーズを反映した製品開発・事業展開	TANOTECH 株式会社 代表取締役	三田村 勉
18		介護現場に寄り添った販売、アフター フォローについて	株式会社マルベリー 在宅事業部	谷 勇司
19		排泄予測デバイスを活用した自立排泄 支援の取組み ～現場の活用を促進する カスタマーサクセス～	トリプル・ダブリュー・ ジャパン株式会社 取締役 COO	小林 正典
20		睡眠解析技術で介護・医療現場の課 題解決に貢献する 「ライフリズムナビ®+Dr.」	エコナビスタ株式会社 経営企画室	榎本 奈津子
21		【追加】BPSD 予測 AI「DeCaAI」の開発	ゲオム株式会社 代表取締 役	矢沢 一真

第4章 スタートアップ支援事業との連携構築

第1節 CARISO 連絡会議の開催

本事業および介護系スタートアップ支援事業(厚生労働省委託事業)との連携促進により、介護テクノロジー開発支援の取組がより効果的となるよう、各事業に関係するサポーターなどの有識者から助言を得るため、CARISO 連絡会議を開催した。

連絡会議では、両事業の概要説明や連携の強化に向けた取組についての意見交換を行った。開催概要は以下のとおり。

図表 4-1 第1回 CARISO 連絡会議 開催概要

(敬称略)

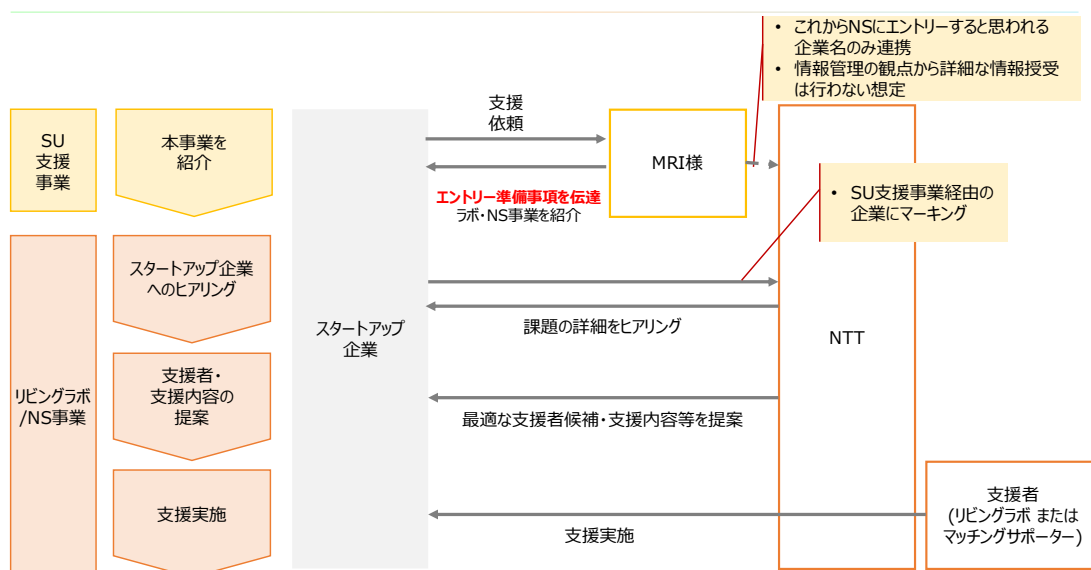
開催日時/形式	令和7年8月1日(金)13:05-14:55 WEB 会議
座長	国立大学法人九州工業大学 大学院生命体工学研究科 教授 柴田 智広
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基幹型リビングラボ ・ 支援型リビングラボ ・ ニーズ・シーズ マッチング検討会 サポーター ・ 介護系スタートアップ支援事業 サポーター <講演者> ・ 五島 清国(公益財団法人テクノエイド協会 企画部 部長) <オブザーバー> ・ 厚生労働省 ・ 経済産業省 ・ 日本医療研究開発機構 ・ 株式会社三菱総合研究所 <事務局> ・ 株式会社 NTT データ経営研究所
アジェンダ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開会の挨拶 ・ 介護を取り巻く環境について <ul style="list-style-type: none"> ➢ 介護保険制度について ➢ 介護関連政策について ➢ 福祉用具・介護テクノロジー実用化支援事業について ・ 事業の取組紹介 <ul style="list-style-type: none"> ➢ リビングラボ/NS 事業について ➢ スタートアップ支援事業について ・ 事業の事例紹介 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 介護テクノロジー開発の共通フレームについて

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ リビングラボ/NS 事業について ➤ スタートアップ支援事業について ・ 事業の連携について <ul style="list-style-type: none"> ➤ リビングラボ/NS 事業及びスタートアップ支援事業の役割分担について ➤ 両事業のエントリー時準備事項について ・ 事務連絡 ・ 閉会
--	--

第2節 スタートアップ支援事業との取次スキームの確立

介護テクノロジー開発企業から介護系スタートアップ支援事業に相談のあった案件の内、本事業へ取次を行う際のスキームを確立した。取次のスキームは以下のとおり。

図表 4-2 介護系スタートアップ支援事業からリビングラボ/NS 事業への取次のスキーム



第5章 周知活動

第1節 事業パンフレットの作成・配布

相談窓口やリビングラボをはじめ、イベント等での配布や関係団体等への周知を目的に、事業パンフレットを作製した。各相談窓口やリビングラボには、各拠点で自由に増刷できるように、紙媒体に加えデータ版のパンフレットも併せて配布した。

パンフレットの構成は以下の通りである。

図表 5-1 事業パンフレットの構成

ページ	掲載内容(概要)
表紙	・ 本事業の概要
中面①	・ マッチング支援の体制 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 介護現場のニーズの紹介 ➢ マッチングサポーターによる支援 ➢ リビングラボ・実証フィールドによる支援
中面②	・ リビングラボの取組 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 開発企業への支援 ➢ 介護サービスの質の向上・効率的なサービス提供に向けた対応 ➢ リビングラボへのアクセスについて
裏表紙	・ 本事業のマッチング支援

図表 5-1 事業パンフレットのデザイン

マッチング支援の体制

A 介護現場のニーズの紹介

ニーズのリストには、施設および在宅の介護現場における様々な課題が含まれており、調査および全国の窓口から寄せられた具体的なかつ最新のニーズ(対象者、場面、現場の工夫等)が随時更新されています。

介護現場のニーズリストはこちら
※随時更新されます

B マッチングサポーターによる支援

マッチングサポーターは、介護テクノロジーの製品知識や介護現場の知識、経験を有している者から選定されています。介護現場(ニーズ)に精通しているサポーターと、テクノロジーの技術(シーズ)に精通しているサポーターが本事業に参画しています。「介護現場のニーズについて詳しく聞きたい」「介護テクノロジーの開発について助言を詳しく聞きたい」といった開発企業の皆さまを支援します。

C リビングラボ・実証フィールドによる支援

リビングラボは、実際の生活空間を再現し、利用者参加の下で新しい技術やサービスの開発を行うなど、介護現場のニーズを踏まえた介護テクノロジーの開発を促進するための機関です。「開発中の介護テクノロジーの製品評価をしたい」「実際の介護現場で使えるかどうか検証したい」といった開発企業の皆さまを支援します。
※リビングラボの取組詳細は次頁参照

企業のエントリーを受付中
～介護テクノロジー開発企業サポートナビ2025～

厚生労働省「介護現場の生産性向上に向けた介護テクノロジー開発等支援事業」において実施

NEEDS SEEDS

そんな全国の開発企業の皆様へ
ニーズ×シーズ
新しい介護イノベーションはここから生まれる

「介護テクノロジー開発企業サポートナビ」は、介護現場のニーズを踏まえた介護テクノロジー開発を促進するため、製品化にあたっての評価・効果検証を実施するリビングラボのネットワークを形成します。また、介護テクノロジーに関する開発企業(シーズ)からの相談を受け付けます。さらに、これらのニーズとシーズのマッチングや、シーズ同士のマッチングの支援を行っています。

※本事業では、介護テクノロジー利用の重点分野(分野別6項目)に限定せず、介護現場で必要となるテクノロジーを広く対象としています。

最新情報は
ホームページを
ご参照ください

<https://www.mhlw.go.jp/kaigoseisansei/ns/>

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

介護現場の生産性向上の
取組・普及支援ナビ

NTT DATA
株式会社NTTデータ経営研究所

リビングラボの取組

● 開発企業への支援

① 介護テクノロジーの製品評価・効果検証
開発企業からの要望に応じて、製品化にあたって開発中のテクノロジーの安全性や仕様効果の評価・検証を実施します。

● 効果検証に係る助言
開発企業からの要望に応じて、介護現場での実証に当たり、実証時の評価・データ分析方法への専門的・技術的な助言を実施します。

● 介護サービスの質の向上・効率的なサービス提供に向けた対応
介護サービスの質の向上・効率的なサービス提供に向けた介護現場での大規模実証等も支援します。

リビングラボへのアクセスについて

リビングラボの利用を検討されている開発企業の皆さまは、リビングラボへ直接ご相談いただくことも可能です。リビングラボは、どのエリアの相談にも対応することができます。

<p>① 東北大学青葉山リビングラボ 〒980-8577 仙台市青葉区中央1-4-10 東北大学工学部機械情報系実用研 TEL: 022-261-5430 FAX: 022-261-5431 URL: http://www.riplab.jp</p> <p>② Future Care Lab in Japan (SOMPO ケア (株)) 〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 丸の内線丸の内駅ビル10階 TEL: 03-5724-0430 FAX: 03-5724-0431 URL: http://www.futurecarelab.com/</p> <p>③ ロボティクススマートホーム・活動支援機器研究実証センター(藤田医科大学) 〒416-8511 静岡県静岡市駿河区南1-1-1 藤田医科大学南校舎内 TEL: 0542-53-2121 FAX: 0542-53-2122 URL: http://www.fukushima.ac.jp/</p> <p>④ ロボット活動支援機器実証センター(国研)産業技術総合研究所 〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 丸の内線丸の内駅ビル10階 TEL: 03-5724-0430 FAX: 03-5724-0431 URL: http://www.riplab.jp</p>	<p>⑤ Care Tech Lab (株式会社善光総合研究所) 〒980-0001 仙台市青葉区中央1-4-10 17号 TEL: 022-261-5430 FAX: 022-261-5431 MAIL: info@caretechlab.jp URL: http://caretechlab.jp/</p> <p>⑥ 柏りビングラボ(国研)産業技術総合研究所 〒400-0001 静岡県静岡市駿河区南1-1-1 丸の内線丸の内駅ビル10階 TEL: 0542-53-2121 FAX: 0542-53-2122 MAIL: info@riplab.jp URL: http://www.riplab.jp</p> <p>⑦ 健康長寿支援ロボットセンター(国研)産業技術総合研究所 〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 丸の内線丸の内駅ビル10階 TEL: 03-5724-0430 FAX: 03-5724-0431 URL: http://www.riplab.jp</p> <p>⑧ スマートライフケア共創工房(国)九州工業大学 〒816-8502 福岡県北九州市八幡西区1-1 九州工業大学 TEL: 093-834-2141 FAX: 093-834-2142 URL: http://www.kyushu-u.ac.jp/</p>
--	--

本事業のマッチング支援

- ① 介護現場のニーズを把握する**
ニーズリストをもとに、サポーターとの相談対応を通じて、介護現場のニーズをお伝えします。
- ② 実証・検証フィールドを探す**
開発した機器の実証・検証に関わる相談及び効果検証を行う介護施設の紹介を行います。
- ③ 企業間で連携する**
他の開発企業や、販売・アフターサービス事業者とマッチング面談を実施します。

相談をご希望の方
【エントリーはこちら】 <https://584f957e.fom.kintoneapp.com/public/kaigof-matching-entry>

パンフレットの配布先は次のとおりである。

図表 5-2 事業パンフレットの配布先

配布先	部数(枚)
(公財)介護労働安定センター茨城支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	300
(公財)介護労働安定センター香川支部 介護ロボット・ICT 相談窓口	300
東北大学青葉山リビングラボ	100
Care Tech Lab ((株) 善光総合研究所)	20
Future Care Lab in Japan (SOMPO ケア (株))	100
柏りビングラボ ((国研) 産業技術総合研究所)	100
ロボティクススマートホーム・活動支援機器研究実証センター(藤田医科大学)	120
健康長寿支援ロボットセンター ((国研) 産業技術総合研究所)	100
ロボット活動支援機器実証センター(吉備高原医療リハビリテーションセンター)	50
スマートライフケア共創工房 ((大)九州工業大学)	300
計	1490

第2節 国際福祉機器展への出展

介護サービス事業所及び開発企業等に向けて本事業の周知を図るため、第 52 回国際福祉機器展(以下、H.C.R.)に出展した。H.C.R.の出展概要は次のとおりである。

図表 5-3 H.C.R.の出展概要

主催者	一般財団法人 保健福祉広報協会 (共済:社会福祉法人 全国社会福祉協議会)
出展場所	リアル展示ブース、ウェブ展
主な来場者 (見込み)	福祉施設職員、ケアマネジャー、ホームヘルパー、福祉団体・ボランティア関係者、医師、看護師、PT、OT、リハビリに携わる方、保育士、栄養士、建築・設計関係者、製造業、販売業、行政、福祉・介護・医療・工学系学生、エンドユーザー、一般 ※H.C.R.のホームページを参照
入場料	無料

第1項 リアル展示ブース

本事業の出展に関する概要は次のとおりである。

図表 5-4 リアル展示ブースの概要

日時	2025年10月8日(水)～10月10日(金)
場所	東京国際展示場「東京ビックサイト」 西展示ホール ブース番号:W-3032
対象	介護サービス事業所、開発企業、一般の方等
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現場の生産性向上の取組・普及支援ナビの紹介 ・ 介護テクノロジー開発企業サポートナビの紹介 ・ 関連事業のポスター展示 ・ 本事業に関連する事業におけるガイドライン、手引き、報告書等の配布
来場者数	延べ86名(※ブースにおいて実際に名刺を交換した人数で読み換え)

図表 5-5 リアル出展ブースの様子



第2項 ウェブ展

昨年度に引き続き、ウェブ上での出展も行った。本事業の概要は次のとおりである。

図表 5-6 ウェブ展の概要

日時	2025年10月3日(金)～11月7日(金)
場所	H.C.R.で用意されたホームページ上
対象	介護サービス事業所、開発企業、一般の方等 ※リアル展示と同様
内容	<ul style="list-style-type: none">・ 介護現場の生産性向上の取組・普及支援ナビの概要<ul style="list-style-type: none">➤ ワンストップ窓口及びPF 窓口の概要➤ リビングラボの概要➤ 介護テクノロジー開発企業サポートナビの概要➤ 介護テクノロジーの試用貸出リストの概要・ 資料<ul style="list-style-type: none">➤ 介護現場の生産性向上の取組・普及支援ナビのパンフレット➤ 介護テクノロジー開発企業サポートナビのパンフレット➤ 資料二次元バーコードリスト・ 出展社情報、問い合わせ先
アクセス数	延べ 59 件 (資料ダウンロード:7 件、製品訪問者数:32 件、来訪者数 19 件、お気に入り登録 1 件)

図表 5-8 ウェブ展のホームページ(トップページ)

介護現場の生産性向上の取組・普及支援ナビ

介護現場の生産性向上の取組・普及支援ナビ

MAPでの行先

小冊番号: W-3032

介護テクノロジーを迅速確実へ導入する取組をしよう！

介護テクノロジーを広く知ってほしい！

そんな全国の介護現場の皆様へ

介護現場の生産性向上の取組・普及支援ナビ

地域における生産性向上の取組を支援し、取組の成果等を発信しております

※本展覧会「介護現場における生産性向上の取組に関する取組事例発表会」は、本展覧会期間中、このように開催

介護現場の生産性向上の取組・普及支援ナビ(厚生労働省委託事業:NTTデータ経営研究所)

本事業は、地域における相談窓口の設置・運営に関する支援、全国の取組の成果等の周知・紹介などを行うことで、介護テクノロジーの開発・導入・普及広げ・活用の流れを促進することを目的としています。

資料ダウンロード
出展社情報
出展社へのお問い合わせ

◆ 製品紹介

リビングラボ

介護現場のニーズを踏まえた介護テクノロジーの開発を促進します！

介護現場の生産性向上の取組・普及支援

介護テクノロジー開発企業サポートナビ

介護現場が抱えている課題(ニーズ)と、開発企業の製品や技術等を...

介護現場の生産性向上の取組・普及支援

疑問質問リスト

掲載内容は、匿名分野に該当する介護テクノロジーを基本とし、集約...

介護現場の生産性向上の取組・普及支援

相談窓口

介護現場からの相談を受け付けています！

介護現場の生産性向上の取組・普及支援

◆ 資料ダウンロード

[パンフレット]介護現場... (PDF: 4,809KB) [↓](#)

[パンフレット]介護テグ... (PDF: 4,103KB) [↓](#)

資料QRコードリスト... (PDF: 468,496KB) [↓](#)

◆ 出展社情報

出展社名	介護現場の生産性向上の取組・普及支援ナビ	TEL・FAX	060-1010-1625/01-3325-7022
住所	東京都千代田区平河町2-7-01A共済ビル9階	URL	https://www.nttdata-strategy.com/ /?

図表 5-9 ウェブ展のホームページ(PF 窓口)

**介護現場の生産性向上の
取組・普及支援ナビ**

**介護現場の生産性向上の取
組・普及支援ナビ**

MAPでの位置

小冊子番号: W-3032

相談窓口

製品画像








選択すると画像が切り替わります。▲

介護現場からの相談を受け付けています!

【介護サービス事業所向け】
介護テクノロジーの介護現場への導入・活用、試用に関するお悩みにお答えいたします。

製品紹介サイトはこちら

出版、福祉機器情報

福祉・介護・リハビリ・保健関係書籍・教材、情報誌、新聞、放送送信、福祉機器関連webサイト

製品仕様

介護サービス事業所からの各種相談等の受付・対応／介護テクノロジーの試用貸出／介護テクノロジーや介護現場の生産性向上に関する研究会の実施／各団体・機関との協議会の実施／現在、相談窓口は全国2カ所にあります。／相談窓口対応可能エリア外への相談は、都道府県が主体となり設置する、介護生産性向上総合相談センターにご相談ください。

出展社情報

出展社名	介護現場の生産性向上の取組・普及支援ナビ	TEL・FAX	080-1010-1625/03-3221-7022
住所	東京都千代田区平河町2-7-9JA共済ビル9階	URL	https://www.nttdata-strategy.com/

図表 5-10 ウェブ展のホームページ(リビングラボ)

**介護現場の生産性向上の
取組・普及支援ナビ**

**介護現場の生産性向上の取
組・普及支援ナビ**

MAPでの位置

小冊番号: W-3032

リビングラボ

製品画像

リビングラボの取組

- 開発企業への支援
 - ① 介護テクノロジーの製品評価・効果検証
開発企業からの要望に応じて、開発中のテクノロジーを全国の介護現場で評価・効果検証を実施し、製品評価レポートを作成し、開発企業へ提供いたします。
 - ② 介護サービスの質の向上・効果的なサービス提供に向けた対応
介護サービス事業者と、開発中のテクノロジーを開発現場での実証実験を実施いたします。
- 効果検証に係る助言
開発企業からの要望に応じて、介護現場での実証実験に合わせた効果検証を実施し、効果検証レポートを作成し、開発企業へ提供いたします。

① 介護テクノロジーの製品評価・効果検証

② 介護サービスの質の向上・効果的なサービス提供に向けた対応

選択すると画像が切り替わります。▲

介護現場のニーズを踏まえた介護テクノロジーの開発を促進します!

リビングラボは、実際の生活空間を再現し、新しい技術やサービスの開発を行うなど、介護現場のニーズを踏まえた介護テクノロジーの開発を促進するための拠点です。現在、本事業に参画するリビングラボは、全国で8施設です。
「開発中の介護テクノロジーの製品評価をしたい」「実際の介護現場で使えるかどうか検証したい」といった介護テクノロジーの開発企業の皆様の支援をいたします。

製品紹介サイトはこちら

出版、福祉機器情報

福祉・介護・リハビリ・保健関係書籍・教材、情報誌、新聞、放送通信、福祉機器関連webサイト

製品仕様

介護テクノロジーの製品評価・効果検証、効果検証に係る助言／介護サービスの質の向上・効果的なサービス提供に向けた対応

出展社情報

出展社名	介護現場の生産性向上の取組・普及支援ナビ	TEL・FAX	080-1010-1625/03-3221-7022
住所	東京都千代田区平河町2-7-9JA共済ビル9階	URL	https://www.nttdata-strategy.com/

図表 5-11 ウェブ展のホームページ(介護テクノロジー開発企業サポートナビ)

介護現場の生産性向上の
取組・普及支援ナビ

介護現場の生産性向上の取
組・普及支援ナビ

MAPでの位置

小冊番号: W-3032

介護テクノロジー開発企業サポートナビ

製品画像

企業のエントリーを受付中
 ～介護テクノロジー開発企業サポートナビ2025～

あなたの生活の質を向上させる
ニーズ×シーズ
 新しい介護イノベーションはここから生まれる

このページは最新です

選択すると画像が切り替わります。▲

介護現場が抱えている課題(「ニーズ」と、開発企業の製品や要素技術等(「シーズ)のマッチング支援を実施

ニーズリストには、施設及び在宅の介護現場における様々な課題が公開されています。
 介護現場やテクノロジー技術の専門家であるマッチングサポーターから助言を得ることができます。
 さらに、リビングラボが、実際の生活空間を再現し、利用者参加の下で新しい技術やサービスの開発を行うなど、介護現場のニーズを踏まえた介護テクノロジーの開発を促進します。

製品紹介サイトはこちら

出版、福祉機器情報

福祉・介護・リハビリ・保健関係書籍・教材、情報誌、新聞、放送通信、福祉機器関連webサイト

製品仕様

①ニーズの紹介・取次、②製品実証・検証に関わる相談及びフィールドの紹介、③製品・技術を有する企業、製品の普及・活用促進を行う企業の紹介、取次

出展社情報

出展社名	介護現場の生産性向上の取組・普及支援ナビ	TEL・FAX	080-1010-1625/03-3221-7022
住所	東京都千代田区平河町2-7-9JA共済ビル9階	URL	https://www.nttdata-strategy.com/

62

図表 5-12 ウェブ展のホームページ(試用貸出リスト)



(出典:H.C.R.ホームページより)

第3節 ニーズ・シーズマッチングセミナーの開催

介護分野における政策動向や、介護現場で使われやすいテクノロジー開発に求められる考え方、開発事例などを紹介することで、介護テクノロジー開発を加速すること、および多数の企業のエントリーにつなげることを目的として、マッチングセミナーを実施した。セミナーの概要およびリーフレットを以下に示す。

図表 5-13 ニーズ×シーズ マッチングセミナーの概要

セミナー名	ニーズ×シーズ マッチングセミナー 2025 ～現場で活用される介護テクノロジーを作り出すために～
開催日時/形式	2025年12月9日(火)14:00～15:10 zoom ウェビナー形式
プログラム	<p>講演① 介護テクノロジー政策の最新動向 (講師:厚生労働省 老健局 高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室 介護テクノロジー政策調整官 佐藤 修一 氏)</p> <p>講演② 介護テクノロジー政策の最新動向 (講師:経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課 医療・福祉機器産業室 丸古 京香 氏)</p> <p>講演③ 介護テクノロジーに求められる UI・UX (講師:有限会社住まいと道具研究所 代表取締役 相良 二郎 氏)</p> <p>講演④ 福祉用具情報システム(TAIS)への介護テクノロジー登録の流れとポイント (講師:公益財団法人テクノエイド協会 企画部 香川 洋一 氏)</p> <p>講演⑤ BPSD 予測 AI「DeCaAI」の開発 (講師:ゲオム株式会社 代表取締役 矢沢 一真 氏)</p> <p>【事業概要説明】ニーズ・シーズマッチング支援事業 (株式会社 NTT データ経営研究所)</p> <p>閉会</p>

図表 5-14 ニーズ×シーズ マッチングセミナーのリーフレット

NS MATCHING 2025 厚生労働省委託事業

ニーズ×シーズ マッチングセミナー2025

～現場で活用される介護テクノロジーを
作りだすために～

介護現場の生産性向上のための介護テクノロジー開発に
役立つ最新情報をお伝えします！

2025年 **12/9** (火)
14:00-15:10 (開場13:50)

対象 介護テクノロジー・ロボット開発に
興味がある/取り組んでいる企業・団体の皆様

参加無料

形式 ZOOM Webinar

申込 以下の二次元コード・URLからお申し込みください

申込期限 12/7(日)



申込URL：
<https://586f057e.form.kintoneapp.com/public/r7ns-seminar-application>

※申込を確認後、事務局より参加URLをお送りします

14:00～
介護テクノロジー政策
の最新動向
厚生労働省・経済産業省

14:20～
介護テクノロジーに
求められるUI・UX
有限会社住まいと道具研究所 代表取締役 相良二朗氏

14:35～
福祉用具情報システム(TAIS)
への介護テクノロジー登録の
流れとポイント
公益財団法人テクノエイド協会 企画部 香川洋一氏

14:45～
BPSD予測AI
「DeCaAI」の開発
ゲオム株式会社 代表取締役 矢沢一真氏

※プログラム内容・講師等は予告なく変更となる場合がございます

主催：株式会社NTTデータ経営研究所

お問い合わせ 株式会社NTTデータ経営研究所
ライフ・バリュー・クリエイションユニット
介護テクノロジーのニーズ・シーズマッチング支援事業 事務局

✉ ns-plat@nttdata-strategy.com

セミナーへの申込者数は 104 名であった。また、講演①～⑤の動画については、セミナー終了後にホームページ上にて公開した。

第4節 セミナー・メディア等における当事業の周知実績

セミナー、メディア等における当事業の周知実績は次のとおりである。

図表 5-15 セミナー、メディア等における周知実績

周知場所	周知内容(概要)
令和7年度 介護テクノロジーメーカー 一連絡会議 (公益財団法人テクノエイド協会)	本事業について講演を行った。
第43回日本ロボット学会学術講演会 (一般社団法人日本ロボット学会)	本事業等の内容について学会発表を行った。
介護テクノロジー等活用ミーティング (公益財団法人テクノエイド協会)	本事業について講演を行った。
第51回国際福祉機器展 H.C.R.2025 (全国社会福祉協議会 保健福祉広 報協会)	リアル展及びウェブ展へ出展を行い本事業の周知を 実施。
CARISO スタートアップセミナーシリー ズ vol.01:CARISO キックオフ！ (株式会社三菱総合研究所)	本事業について講演を行った。
令和7年度 介護テクノロジー等シン ポジウム (公益財団法人テクノエイド協会)	本事業について講演を行った。

第6章 まとめ

第1節 事業成果

第1項 介護テクノロジーの開発と実証

(1)リビングラボネットワーク

本年度は、全国8か所のリビングラボにおいて、142社の開発企業等に対し、延べ304件の支援を実施した。支援の内訳は以下の通りである。

【全国のリビングラボにおける主な企業支援の実績】

- ・ 相談対応・・・延べ286件の相談に対応した
- ・ ラボ検証・・・延べ10件のラボ検証を実施した
- ・ 実証・・・・・・・延べ8件の実証を実施した

リビングラボによる支援を受けた製品の分野は、「その他(ADL評価アプリ、ヒト型の介護助手ロボット、ベッド用グリップ等)」が全体の28%と最も多く、次いで「見守り・コミュニケーション(施設)分野」が23%、「移乗支援(装着)分野」および「介護業務支援分野」が19%であった。

また、介護業界への参入有無は「参入している」が78%、「参入していない」が22%であった。機器の開発状況は、「企画(ニーズ調査)」が最も多く全体の38%、次いで「開発(実運用環境での実証)」が33%、「開発(研究室レベルでの実証)」が25%であった。

リビングラボへの相談目的は、「実環境での実証支援」が最も多く全体の48%、次いで「現場ニーズ伝達」が43%、「コンセプト設計」が22%であった。また、リビングラボへの期待は、「ニーズに対する助言」が最も多く全体の56%、次いで「介護現場での実証」が44%、「現場に近い環境での検証」および「有効性評価」が40%であった。

これに対するリビングラボの対応内容は、「その他(評価方法の助言、海外展開に関する助言、国際福祉機器展でのプレゼンに関する助言等)」が最も多く全体の56%、次いで「実証支援」が35%、「コンセプト設計」が23%であった。

これらの結果が示すとおり、本年度事業では、開発企業が特に求めている支援は「介護現場での実証支援」であり、全体の半数程度を占めた。これは上市済み企業からの相談が全体の78%を占める中で、実証を通じた製品改良を望む企業が多くあったことが要因として考えられる。一方で、リビングラボの対応としては、「その他」が最も多く、「実証支援」は全体の35%にとどまった。これは開発企業側が想定している実証と、リビングラボが実証支援を行うに当たり準備すべき事項(実証計画書の作成、倫理審査の受審等)に関する認識に相違があることが要因として考えられる。

ただし、リビングラボでは開発企業が実証を行うために必要な準備を継続的に支援しており、今後も同様の支援を継続して行っていく必要があると考えられる。

また、昨年度の開発企業支援実績と比較すると、相談対応件数は20%増、ラボ検証件数は29%減、実証件数は20%減であった。相談件数については年間を通じて毎月15件以上の相談があり、介護テクノロジーの開発支援において、本事業が相談の拠点として機能していると推察される。さ

らに、リビングラボに複数回相談のあった開発企業は相談全体の 33%であった。リビングラボによる継続的な支援が開発企業の相談ニーズに適合したことも相談件数の増加の要因と考えられる。

一方、検証件数・実証件数は上述のとおり、検証・実証の実施に至るために継続的な支援を要する相談が多くあったことが、検証・実証件数減少の要因と考えられる。ただし、本年度複数回支援を行った企業が相談全体の 3 割を占めることから、次年度以降、検証・実証につながるケースが増えていくことが期待される。

(2) ニーズ・シーズマッチング支援事業

本年度のニーズ・シーズマッチング支援事業では、介護現場や介護ロボット等の開発に関する専門知識を有するマッチングサポーター全 46 名(ニーズ側:26 名、シーズ側:20 名)を配置した。その上で、開発企業が、自社に適した支援者を探しやすくなるように、ホームページにおけるマッチングサポーターとリビングラボの検索軸について、「マッチングサポーター・リビングラボを探す」を「マッチングサポーターを探す」と「リビングラボを探す」に分割のうえ、本年度改訂された介護テクノロジー利用の重点 9 分野との整合を図るため、検索項目を当該分野に対応した分類へ再整理し、分野別検索機能を拡充した。

介護現場のニーズリストについては、分類方法を見直し、厚生労働省「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン」に掲載されている業務時間調査票をもとに体系的に再整理した。また、発生するニーズが 1 日のどの時間帯に生じているのかを把握できるよう、利用者が起床してから翌日の起床に至るまでの時間帯を網羅的に選択肢として設定した。これにより、介護業務の内容および生活時間帯との関連性を踏まえたニーズの整理が可能となる構成とした。

さらに、介護分野への新規参入を検討する企業向けに、介護分野特有の制度や開発方法を有識者が解説するビデオコンテンツを制作し、ホームページで一般公開した。本年度は、公益財団法人テクノエイド協会、ゲオム株式会社 等の協力のもと、5 つのコンテンツを追加・更新した。

事業周知の面では、過年度協力を得た業界団体等に加えて、産業育成コミュニティー(産業クラスター等)の協力を得て、それぞれの関係企業に広く広報、周知した。

その結果、本年度は 51 団体のエントリーがあった。エントリーした団体の属性を見てみると、大企業が 20%、中小企業が 29%、小規模企業が 43%となった。このうち、小規模企業について、介護テクノロジー分野における開発を行っていること、日本国内に拠点があること、創業後 15 年以内であること等の要件を満たすスタートアップに該当する企業は 9 社であった。また介護分野への参入状況で分類すると、参入済の企業が 47%、未参入の企業が 49%だった。さらに、参入済の企業の内訳は「介護分野向けに機器を自社開発し、上市している」が最も多く 37%、次に「他社の介護ロボットや福祉用具を販売している、またはアフターサービスを提供している」が 12%、「介護分野向けに機器を開発している企業に要素技術を提供している」が 2%となった。

製造業全体では中小・小規模企業が大半を占める産業構造にあることを踏まえると、本事業において、幅広い規模の企業からエントリーが得られたといえる。一方で、エントリーは自社開発企業が中心であり、販売・アフターサービスを担う企業は少数にとどまった。また、要素技術を提供する

企業からのエントリーはあったものの、開発企業側のニーズとの一致には至らなかった。このようなエントリー構成を背景に、マッチングは主として開発段階に集中し、販売・導入段階まで展開する案件は限定的であったことから、件数は前年を下回る結果となった。

第2節 今後必要と考えられる取組

第1項 介護系スタートアップ支援事業との連携によるスタートアップ企業を含めた介護業界未参入事業者への支援の充実

本年度より介護系スタートアップ支援事業が開始され、同事業から紹介を受けたスタートアップ企業から本事業への相談事例が確認された。これらの相談において、スタートアップ企業が本事業に期待する主な内容は、有識者による製品評価、介護現場のニーズに関する助言、並びに介護現場における実証機会の提供であり、技術開発段階において現場適合性を高めるための支援ニーズが高いことが明らかとなった。

一方で、リビングラボ及びマッチングサポーターによる助言過程においては、スタートアップ企業側において、介護保険制度や介護サービスの提供体制、現場業務の特性等に関する基礎的理解が十分でないことに起因し、開発コンセプトと現場ニーズとの間に認識の乖離が生じる事例も見受けられた。このことは、技術的優位性のみならず、介護業界の制度・業務・利用者特性を踏まえた総合的な理解が、製品開発の初期段階から求められることを示唆している。

以上を踏まえ、今後はスタートアップ企業への相談対応に当たり、介護保険制度の概要、介護現場の業務構造、導入プロセス等の基礎的知識を体系的に整理した資料を整備するとともに、開発初期段階から制度理解及び現場理解を促進する支援機能を強化していくことが重要である。

第2項 介護現場のニーズを開発企業に周知する仕組みの強化

過年度からの取組を通じて、ニーズリストには多数の介護現場のニーズが集約されている。また、ニーズリストの項目についても見直しを行い、より開発企業にとって活用しやすい形に整理がなされた。

一方で、近年の見守り分野のテクノロジーの普及や、生成 AI を中心とした新技術の導入などによって、介護現場のニーズは日々変化していると考えられる。現状、ニーズリストについてはマッチングサポーターやリビングラボ等の有識者の知見に基づき作成されている。今後は、日々変化するニーズをタイムリーに収集し、開発する製品の市場規模推定に活用できるよう定量性のある形で公開していく仕組みへと強化することが求められる。具体的には、介護生産性向上総合相談センターに寄せられる相談データ等を収集、分析し、そこから新たなニーズを抽出するといった例が考えられる。

第3項 販売・アフターサービス企業等をさらに巻き込む取組

開発企業が製品を社会実装に展開していくうえでは、販売・導入を担う企業の関与が重要となる。本年度はエントリーが自社開発企業に偏り、販売・アフターサービス企業の参画は限定的であった

ことから、マッチングは主として開発段階に集中する結果となった。

これを踏まえ、今後は販売・アフターサービス企業への働きかけの在り方を見直す必要がある。具体的には、業界団体等の協力を得ながら販売・アフターサービス企業を対象とした説明や意見交換の機会を設け、その場でアンケート等を実施することにより、新規商材の取扱い判断にあたって重視される観点や開発企業に対する要望、本事業への参画に関する考え方を把握することが考えられる。また、販売企業において本事業の位置付けや活用方法が十分に共有されていない可能性も踏まえ、事業の趣旨やマッチングの仕組みを直接説明する機会を設けることが重要である。これらの取組を通じて、販売・導入段階までを見据えたマッチング機能の充実を図る必要がある。

第4項 新たなマッチングサポーター（AI・無人化技術の知見を有する有識者等）

生成 AI 等のデータ活用技術および無人化・自動化技術の進展により、情報処理や業務の自動化は他産業において広く活用される段階に至っており、介護分野においてもその活用を前提とした検討が求められている。介護テクノロジー利用の重点分野においても、従来の機器導入にとどまらず、業務全体の効率化や支援方法の見直しを視野に入れた活用が必要となる。

こうした技術を介護現場に適切に取り入れるためには、その活用範囲や留意点を整理し、現場業務との整合性を確認した上で導入を進める必要がある。このため、本事業においては、生成 AI や無人化技術に関する知見を有する有識者を新たなマッチングサポーターとして位置付け、重点分野に対応した支援内容の質を高めていくことが求められる。

参考：これまでの本事業の取組から見る開発支援の利用者像

以下に、本事業の実績の一部を記載する。今後の取組に向け、利用者像をイメージするための一助となれば幸いである。

(1)開発企業

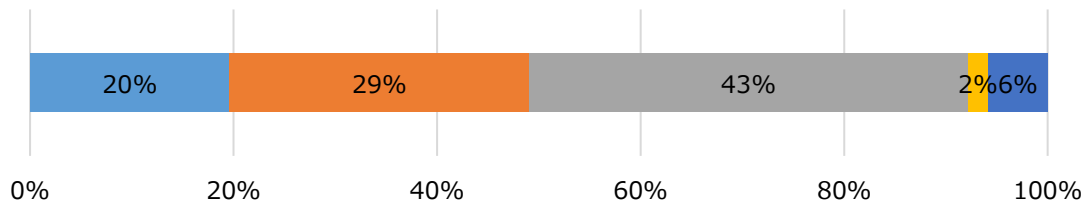
1)企業規模

本年度、ニーズ・シーズマッチング支援事業にエントリーした企業の企業規模の分布は以下のとおり。大企業、中小企業、小規模企業のいずれも本事業を利用した。

図表 6-1 ニーズ・シーズマッチング支援事業にエントリーした企業の企業規模

n=51

- 大企業（常時雇用する従業員数が300人より多い、且つ資本金が3億円より多い）
- 中小企業（常時雇用する従業員数が300人以下、または資本金が3億円以下）
- 小規模企業（常時雇用する従業員数が20人以下）
- その他（会社以外等）
- 無回答

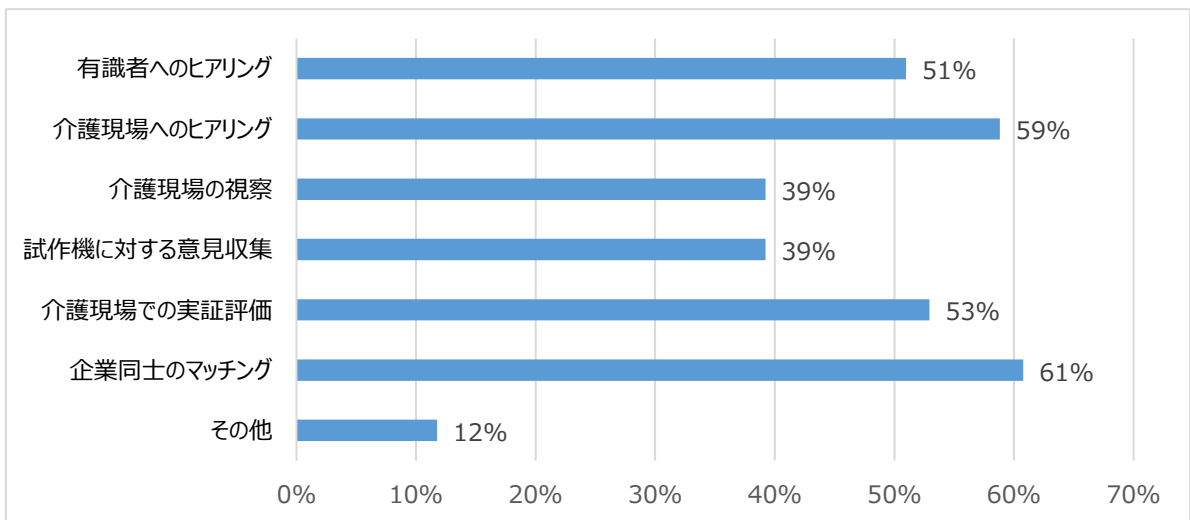


2) 開発企業の希望

本年度、ニーズ・シーズマッチング支援事業にエントリーした企業が希望した支援は以下のとおり。「企業同士のマッチング」「有識者へのヒアリング」「介護現場へのヒアリング」「介護現場での実証評価」を希望する企業の割合が高かった。

図表 6-2 ニーズ・シーズマッチング支援事業にエントリーした企業が希望する支援の種類

n=160(複数回答)

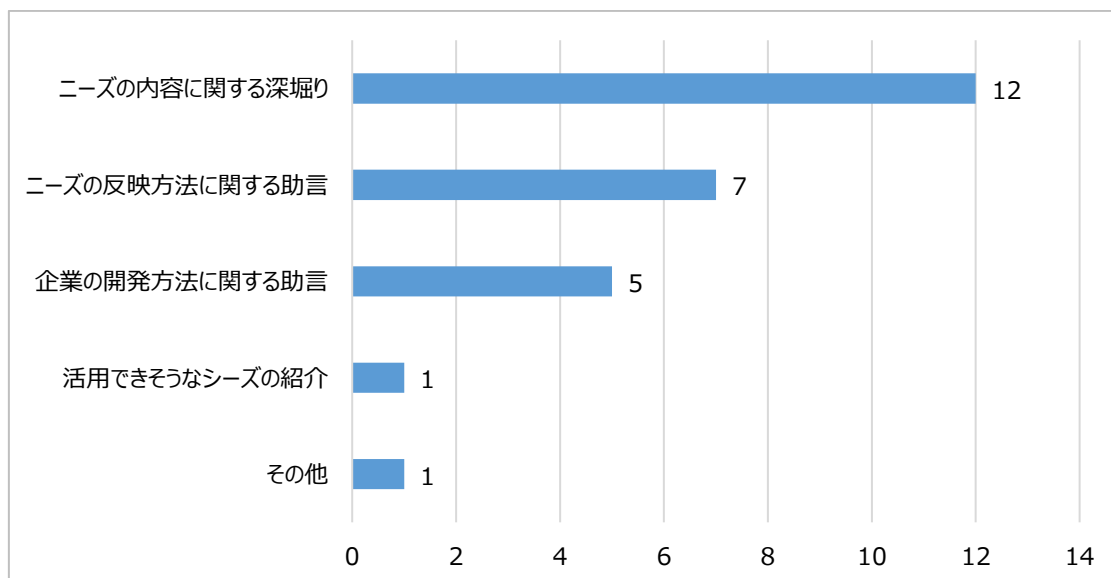


3)開発企業の相談内容と有益であった助言

本年度、ニーズ・シーズマッチング支援事業にエントリーした企業が、マッチング支援①においてマッチングサポーターに相談した内容は以下のとおり。「ニーズの内容に関する深堀り」「ニーズの反映方法に関する助言」を求めて相談を行った企業の割合が高かった。

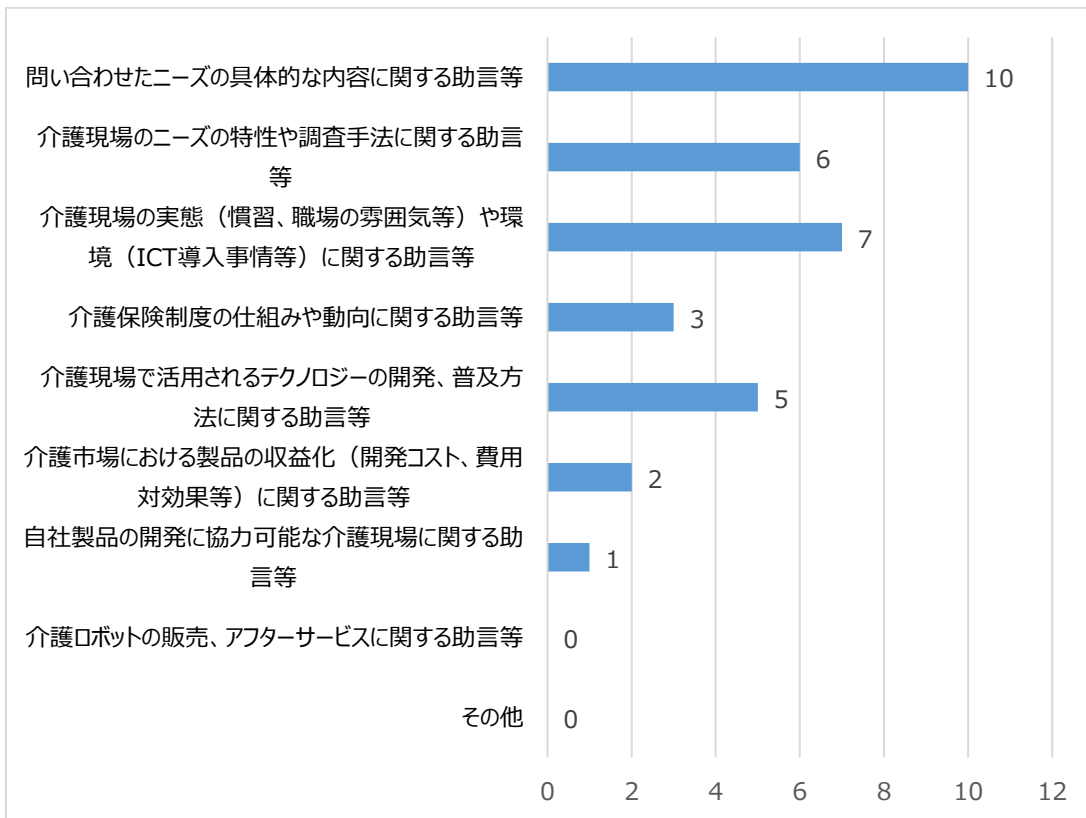
図表 6-3 ニーズ・シーズマッチング支援事業 マッチング支援①における相談内容

n=14(複数回答)



また、上記の企業が有益だと感じたマッチングサポーターの助言は以下のとおり。「問い合わせたニーズの具体的な内容に関する助言等」「介護現場の実態(慣習、職場の雰囲気等)や環境(ICT 導入事情等)に関する助言等」「介護現場のニーズの特性や調査手法に関する助言等」を有益だと感じた企業が多かった。

図表 6-4 ニーズ・シーズマッチング支援事業 マッチング支援①を実施した企業が有益だと感じた助言
n=34(複数回答)

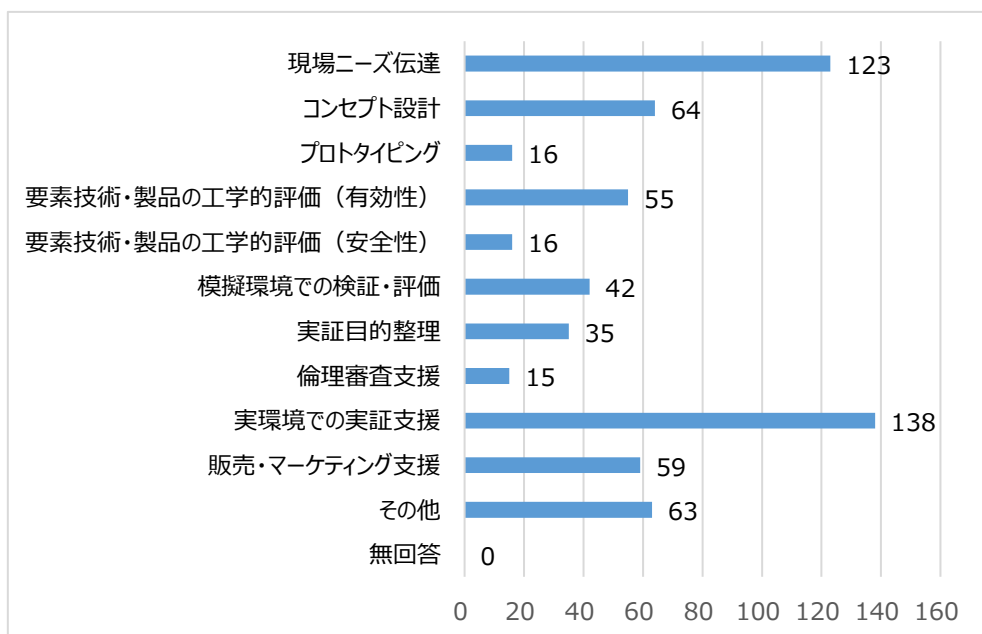


4)開発企業の相談目的とリビングラボの対応内容

本年度、リビングラボの相談対応数に対する相談目的の内訳は以下のとおり。「実環境での実証支援」「現場ニーズ伝達」「コンセプト設計」を目的とした相談が多かった。

図表 6-5 リビングラボへの相談目的の割合

n=286(複数回答)



また、本年度、リビングラボにて実施した対応内容は以下のとおり。「その他」を除いては、「実証支援」「コンセプト設計」の対応を行った割合が高かった。

図表 6-6 リビングラボでの対応内容の割合

n=286 (複数回答)

